

# 新型コロナウイルスの 社会的影響にかかわる調査

2020年度 「社会調査実習B」報告書

辻 竜平 編

2021年3月

近畿大学総合社会学部  
社会・マスメディア系専攻

## まえがき

本報告書は、2020年度後期に近畿大学総合社会学部社会・マスメディア系専攻の専門科目「社会調査実習 B」（担当教員：辻 竜平）において実施したウェブ調査「新型コロナウイルスの社会的影響にかんする調査」の報告書である。

2019年12月に中国湖北省武漢市において発生したと言われる新型コロナウイルス（COVID-19）は、日本を含めた世界各国・各地に拡散し、2020年はそのパンデミックで全世界的に大きな影響が生じた。その影響は、公衆衛生はもちろん、経済・政治・社会・文化など社会のあらゆる領域に及ぶものであった。

本調査は、2020年11月初旬、第3波の流行がちょうど始まりかけたころ、インターネット調査会社であるマクロミル社の調査モニターを対象として実施された。そのため、対象者たちは、2020年4月から5月にかけての「緊急事態宣言」や、その後の「Go To トラベル」キャンペーンなどを経験し、それらにかかわる意見を持っていた。本調査では、そのような経験や意見を尋ねる質問が多い。一方、第3波はちょうど始まった頃だったので、それにかかわる経験や意見については扱っていない。

ところで、「社会調査実習 B」は、社会調査士課程に含まれる科目であり、全ての統計系の科目と調査系の科目を最終的に統合し、実際に自らの手で調査を実施し分析する実習科目（区分としてはG科目）として位置づけられている。その配当年次は3年となっており、また本専攻においては、この科目の先修科目として、中級レベルの統計系科目である「量的解析法」（社会調査士 E 科目）もしくは「質的分析法」（社会調査士 F 科目）のいずれかの単位を修得していなければならない。「量的解析法」と「質的分析法」には先修科目はないものの、これらは初級レベルの統計系科目である「社会統計学 A」（社会調査士 C 科目）、「社会統計学 B」（社会調査士 D 科目）の内容の上に立つ科目である。また、これらの統計系の科目とは別に「社会調査法 A」（社会調査士 A 科目）と「社会調査法 B」（社会調査士 B 科目）という調査系の科目も設けられている。そして先述したように、「社会調査実習 B」は、これらの全ての科目の総仕上げの科目として位置づけられる科目である。

この報告書は、調査に参加した学生たちの調査レポートをもとにしている。学生たちは各自の興味関心の近さから3つの班に分かれ、調査計画から調査レポートの執筆まで行った。その参加者を班ごとに五十音順に記しておく。各班の人数には、もともとあまり差はなかったが、最終レポートの提出まで到達できた人のみを記しているため、人数に違いが出ている。

第1班：有本千華，金沢宗隆，北村優来，福田ひかる，前田謙士，松岡大貴，三森颯太郎

第2班：赤江沙生，安西来惟，矢内梨乃，龍野元，豊田祐伍

第3班：川崎悠，仲尾 香澄，中山 真衣，西谷唯，藤原彩

報告書をまとめるに当たっては、学生たちから提出された調査レポートをもとに、辻が推敲し、不必要な部分やテーマの本筋からそれた部分を削除するとともに、不足部分は補った。

また、分析自体の誤りがないかどうかについても、一通りの確認を行った。それゆえ、辻が本報告書の内容について最終的な責任を負う。なお、統計分析には、Microsoft Excel のマクロとして動作する統計ツールである「HAD ver. 16 build 302」を共通のツールとして用いた。また、辻は別途 STATA ver. 16.1 も併用して、データの前処理等の操作や検算などを行った。

本報告書の各章の内容について、概略を記しておく。

第 1 章『新型コロナウイルスの社会的影響にかんする調査』の目的と概要」では、本調査の背後にある問題関心について述べたあと、調査の概要を記す。

第 2 章「新型コロナウイルスの影響による余暇活動の変化」(第 1 班)では、緊急事態宣言を契機とした「自粛」ムードの中で、人々がどのような余暇活動を行ったのか、どの余暇活動は増え、どれは減ったか、また、それらに当てる費用の変化はどうかについて検討している。

第 3 章「新型コロナウイルスの流行にかかわる情報伝達」(第 2 班)では、新型コロナウイルスにかんする情報収集行動と地域性、周囲の人々の新型コロナウイルス感染にかかわる情報伝達と地域性、COCOA など人々の接触を確認するアプリの利用について検討している。

第 4 章「新型コロナウイルスに対する恐怖」(第 3 班)では、地域における感染の多寡と感染への恐怖、通勤・通学の頻度と感染への恐怖、従事する職業と感染への恐怖、メディアへの接触と感染への恐怖について検討している。

最後に、本報告書は、調査会社のモニターを使ったこともあり、サンプリングのバイアスは否めないが、ある程度の一般性はあるだろう。本報告書の結果が、何某かの実践的課題の解の手がかりになるならば望外の幸せである。

2021 年 3 月

近畿大学 総合社会学部 社会・マスメディア系専攻  
教授 辻 竜平

# 「新型コロナウイルスの社会的影響にかんする調査」調査報告書

## 目次

まえがき .....	i
目次 .....	iii
第1章 「新型コロナウイルスの社会的影響にかんする調査」の目的と概要 .....	1
第2章 新型コロナウイルスの影響による余暇活動の変化 .....	7
第3章 新型コロナウイルスの流行にかかわる情報伝達 .....	21
第4章 新型コロナウイルスに対する恐怖 .....	35
付録 .....	47
付録1 「新型コロナウイルスの社会的影響にかんする調査」調査票 .....	48
付録2 「新型コロナウイルスの社会的影響にかんする調査」基礎集計表 .....	73

## 第1章 「新型コロナウイルスの社会的影響にかんする調査」の目的と概要

### 1-1 「新型コロナウイルスの社会的影響にかんする調査」に至る経緯と目的

#### 1-1-1 「新型コロナウイルス（COVID-19）」にかかわる経緯（2020年11月初旬まで）

2019年12月31日、中国湖北省武漢市において、肺炎のクラスターが報告され、新しいコロナウイルスであることが次第にわかってきた。2020年1月6日には、日本でも厚生労働省（以下、厚労省）が注意喚起を行った。その後、新型コロナウイルス（COVID-19）は、中国から世界に広がり始めた。1月30日には、WHOが「国際的な緊急事態」を宣言した。

2月3日には、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」が横浜港に入港したが、それ以前の寄港地である香港で、香港在住の乗客（男性）が下船したあと新型コロナウイルスに感染していることが確認されたため、2月19日まで下船が許されず、結局712人が感染し、13人が死亡した。

安倍首相（当時）は、3月2日から、全国全ての小学校・中学校・高校などで、春休みに入るまで臨時休校するように要請した。それを受けて、各地で入試や卒業式が、厳重な対策を講じ、規模を縮小するなどして行われた。3月9日には、「専門家会議」が、①換気の悪い密閉空間、②多くの人の密集、③近距離での会話や発話（密接）という「3つの条件」（その後「3密」と呼ばれるようになる）を示し、この条件が重なるような場所や場面を避けるように呼びかけた。3月11日には、選抜高校野球が中止と決まり、3月24日には、2020年7月から開催予定だった東京オリンピック・パラリンピックが2021年まで1年間延期されることになった。3月29日には、国民的なコメディアン志村けんさんが新型コロナウイルスによる肺炎のため亡くなり、国民に大きな衝撃を与えた。

4月7日には、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・大阪府・兵庫県・福岡県の7都府県に対して「緊急事態宣言」を行い、安倍首相は、外出を自粛し、人と人との接触機会を最低7割、極力8割削減するように呼びかけた。また、4月16日には、「緊急事態宣言」は全国に拡大し、先述の7都府県に加えて、北海道・茨城県・石川県・岐阜県・愛知県・京都府の6道府県を合わせた13都道府県は「特定警戒都道府県」と位置づけられた。4月18日には国内の感染者が1万人を超えたと報じられた。当初、「緊急事態宣言」は5月6日までであったが、5月4日、政府は宣言を5月31日まで延長することとした。これを受けて、同日、日本相撲協会は、大相撲夏場所（24日初日）の中止を発表した。また、5月20日、日本高等学校野球連盟は、夏の甲子園大会の中止を発表した。しかし、「緊急事態宣言」は31日まで継続されず、途中、5月14日に39県において宣言は解除され、21日には大阪府・京都府・兵庫県において、25日には残っていた東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・北海道において、宣言は解除された。3月中旬から5月下旬あたりまでで、およそ「第1波」が終息したとされる。

ところが、宣言が解除されると、次第に感染は再拡大し始めた。6月2日、東京都は感染再拡大の兆候が現れたとして「東京アラート」を発動した（11日に解除）。6月19日、政府は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための都道府県境をまたぐ人の移動の自粛要

請を全国で解除した。6月24日、西村経済再生担当相は、政府との関係性や位置づけが不明確として「専門家会議」を廃止し、「新型コロナウイルス感染症対策分科会」（以下、分科会）を設置する方針を明らかにした。

自粛ムードの一方で、経済を「回す」政策も始められた。7月10日、赤羽国土交通相は、新型コロナウイルスで打撃を受けている観光業界を支援する「Go To トラベル」キャンペーンを7月22日から始めると発表した。当初、8月上旬の開始が見込まれていたが、前倒しされた形になった。しかし、感染流入を懸念する地方の声に配慮するため、7月16日、政府は、東京発着を対象外とする方針を決めた。

7月10日には、プロ野球公式戦5試合とサッカーJリーグのJ2の1試合が、観客を入れた状態で開催された。J1も11日の試合から観客を入れ始めた。観客は、マスク着用や数席離れた着席などの感染防止策に協力するように求められた。7月19日からの大相撲7月場所は、通常は名古屋市で開催されるどころ、東京にて開催された。

6月頃は感染者数は低めで安定していたが、7月頃からは再び感染者数が増加しはじめ、いわゆる「第2波」が始まった。そのピークは8月上旬であった。感染者数は、その後減少傾向に転じ、9月下旬頃には下げ止まった。それでも第1波のピーク時程度までしか下がらず、横ばいとなった。第2波の始まりは「Go To トラベル」キャンペーンの開始と重なっていたためか、マスメディアの報道においても、第2波の感染状況の深刻さをあまり強くは伝えなかった。

7月30日、内閣府は、2020年度の国内総生産（GDP）の成長率について、前年度比でマイナス4.5%になるとの試算を経済財政諮問会議に提出した。これは、2008年度のリーマンショック時のマイナス3.4%を超える落ち込みである。

国内政治では、8月14日に自民党総裁選で菅義偉官房長官が第26代総裁に選出され、16日の臨時国会で第99代首相に指名され、菅内閣が発足した。所信表明演説は10月26日、新型コロナウイルス対策と経済活動を両立させる方針を表明した。

10月29日には、国内の新型コロナウイルスの感染者が10万人を超え、死者数も1761人となった。新型コロナウイルスの感染者数は11月に入る頃からにわかに増加した。これが「第3波」の入り口であった。本調査は、後で詳述するが、11月13日から15日にかけて行われた。この時期は第3波の初期であり感染者の増加傾向があるものの、人々の危機感などは、まだそれほど強くなかった。

### 1-1-2 「新型コロナウイルスの社会的影響にかんする調査」の目的

2020年は、日本を含め全世界が新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックの大きな影響を受けた。日本国内に限っても、緊急事態宣言、外出自粛とそれに伴う「新しい生活様式」あるいは「ニュー・ノーマル」への変化があった。その具体的な変化は余暇活動においてどのように見られたのか。また、新型コロナウイルスにかかわる情報が求められたが、人々はどのような情報源を頼ったのか、また地域差はあったのだろうか。新型コロナウイルスに対して人々が抱く恐怖にはどのようなものがあったのだろうか、また、居住地域の感染の程度によって恐怖の程度に違いがあったのだろうか、どのようなメディアを使うかに

よって恐怖を覚える程度が違ったのだろうか。本調査では、新型コロナウイルスにかかわる  
こういった問題を扱う。

## 1-2 「新型コロナウイルスの社会的影響にかんする調査」の方法

### 1-2-1 調査時期

調査時期は、2020年11月13日から15日にかけてであった。新型コロナウイルスの流行は、進行中の出来事であり、またそれに伴って社会の状況も常に変化していたから、この時期を特段に狙って調査を行ったわけではない。ただ、調査準備をしていた2020年度後期は、「第2波」が次第に落ち着きつつあり、毎日のように感染者数の報道はあるものの、人々はその状況を受け入れ、小康状態というような局面にあった。11月初旬になると、「第3波」の始まりが感じられたが、本調査が行われた時期は、まだ本格的な感染者数の増加が始まる頃で、一部の敏感な人々を除けば、多くの人々の意識はまだ小康状態のままに近かったと思われる。そのような中で、本調査における、「緊急事態宣言」の頃を振り返ってもらうような質問や、その後その時点までの生活にかかわる質問に対しては、落ち着いて回答してもらえる状況にあったと思われる。

### 1-2-2 調査方法と対象者

インターネット調査会社であるマクロミル社の調査モニターを用いたインターネット調査を行った。

対象者の選定に当たっては、以下のような方法で各カテゴリに対して割り付けを行った。まず、4月7日に「緊急事態宣言」がなされた、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・大阪府・兵庫県・福岡県の7都府県（これを「大都市部」と呼ぶ）とそれ以外の県（これを「地方部」と呼ぶ）を分けた。次に対象とする年齢を15歳から74歳としたうえで、大都市部・男性、大都市部・女性、地方部・男性、地方部・女性の4つのカテゴリを設け、各カテゴリ175票、合計700票とすることにした。

表1-1 大都市部と地方部のサンプルサイズ

	大都市部		地方部	
	男性	女性	男性	女性
15才～24才	24	23	23	22
25才～34才	29	27	25	24
35才～44才	39	37	33	32
45才～54才	33	34	30	31
55才～64才	28	29	33	34
65才～74才	30	34	33	37
小計	183	184	177	180
合計				724

回答に当たっては、マクロミル社の規定に従い、この調査では、自身の病歴、友人・知人の病歴、身近な人の死について問うことを説明し、それに同意した人のみが、それ以降の質問に回答するようにした。したがって、表1-1の724名とは、同意した人の人数である。

マクロミル社は、回答者の回答チェックなどを行っているようであるが、それでも不適切な回答をする人がいるかもしれないので、若干多めにサンプルを取ることにしているようである。そのため、最終的なサンプルサイズは、表1-1のとおりで、合計724票である。年齢は割り当て条件には使っていないが、10才刻みの年齢層別に示した。

### 1-2-3 質問項目一覧

調査票は、全31問で構成されていた。その質問項目の内容を簡潔に分類・整理したものが下の表1-2である。

表1-2 質問項目一覧

質問番号	質問内容	備考
1	回答への合意	
2	新型コロナウイルス情報の入手先	
3	新型コロナウイルスの情報源への信用	心理尺度
4	緊急事態宣言以降のさまざまな余暇活動の増減	
5	緊急事態宣言以降のさまざまな余暇活動への金銭の増減	
6	緊急事態宣言以降期間における外出と接触の増減	
7	現時点における外出と接触の増減	
8	Go To トラベル, Go To イートの利用回数	
9	新型コロナウイルスへのさまざまな恐怖, 感染防止対策	
10	接触確認アプリ (COCOA など) の利用	
11	接触確認アプリの確認頻度	
12	接触確認アプリへの評価, 地域社会にかかわる認識	
13	地域の人からの感染者情報の入手と, 地域の人への伝達	
14	新型コロナウイルスでの入院経験	
15	新型コロナウイルスに感染した友人・知人数, 東日本大震災で亡くなった友人・知人数	
16	20種類の苗字を持つ友人・知人数(電話帳法による知人数推定)	
17	文化的自己観尺度	心理尺度
18	一般的信頼尺度, 外向性尺度	心理尺度
19	権威主義尺度	心理尺度
20	学歴	属性
21	雇用形態	属性
22	職業	属性
23	新型コロナウイルスに影響を受ける職業	属性
24	通勤・通学時間	属性
25	通勤・通学手段	属性
26	緊急事態宣言以前・以降・現在の在宅勤務(オンライン授業)の日数	属性
27	2019年の本人の収入と世帯収入	属性
28	2020年の本人の収入と世帯収入の前年比割合	属性
29	婚姻状態	属性
30	高校生以下の子どもの有無	属性
31	居住地域	属性



### 1-2-3 コロナ禍におけるインターネット調査会社とのやりとりについて

本章を締めるにあたり、インターネット調査会社とのいくつかのやりとりについて、後の参考のために記録を残しておきたい。新型コロナウイルス流行の只中（コロナ禍）における新型コロナウイルスの感染についての調査だったことと、センシティブな質問がありうるために、調査会社としても非常に慎重になっていた。それによって、少なからず調査計画を変更せざるをえなかった。そこでどのようなことがあったかについて記録しておくことは、今後類似の調査、あるいは、重大な社会問題について調査を行う際に、同様の問題が生じる可能性を考えるために有効だろう。

本調査で利用したのは、インターネット調査会社の1つであるマクロミル社であった。当初、われわれの実習で調査したい質問項目について提示したが、マクロミル社からは、いくつかの質問項目については、聞くことができないとのことであった。

#### 1. 調査対象者自身が新型コロナウイルスに感染した経験を問う項目

当初、われわれは、調査対象者本人が新型コロナウイルスに感染したかどうかを直接的に尋ねる調査項目を予定していた。しかしながら、それは、マクロミル社から拒否された。その理由は、政府が配信している日々の感染者数、そしてそこから計算できる感染率が、本調査から計算できる感染率と合わないことになると困るということであった。もし合わないということになると、政府が嘘の情報を流しているのか、マクロミル社の調査のやり方や調査モニターの代表性に問題があるのか、といった話に発展する可能性があり、マクロミル社としては、それは避けたいとのことであった。

そして、マクロミル社からは、新型コロナウイルスに感染して入院したことがあるかを問うのであればよいとのことであった。その理由は、新型コロナウイルスに感染しても、自宅やホテルで療養をする人もいて、必ずしも入院するわけではないから、感染率を計算できないため、ということであった。

実際のところ、われわれは、誰が感染したかや、感染率そのものについては関心がなく、感染した人としなかった人で、行動や意見がどのように違うかということを知るために、感染したかどうかを尋ねたかったのである。報告書内で感染率にかかわる集計はしないということでもよいとの譲歩案も示したが、聞き入れられなかった。

最終的には、Q14にあるように、「あなたは、新型コロナウイルス感染症で入院したことがありますか？」と尋ねることと、Q1で「当アンケートでは、以下の内容についてお伺いする箇所が含まれております。」とし、その1項目として、「あなたご自身の病歴」を含めることとした。これに「同意しない」場合は、そこで回答は打ち切りとなり、調査対象者とはしないこととなった。

#### 2. 友人・知人に新型コロナウイルスに感染した人がいるかどうかを問う項目

当初われわれは、調査対象者の友人・知人に新型コロナウイルスに感染した人が何人いるかを尋ねる項目と、それぞれの人々がどういう属性で、どのような行動をし、どのような意見を持っているのかを尋ねる項目を予定していた。しかしながら、それらの項目は、マクロミル社から拒否された。その理由は、友人・知人にかかわる情報は、その人たちのプライバシー、それも、コロナ禍にあっては特にセンシティブなプライバシー

にかかわっており、それらについて調査対象者が、その友人・知人に成り代わって情報を開示することは問題であるということであった。

しかしながら、少なくとも通常の調査であれば、社会ネットワークの調査でネームジェネレータ法を用いて、特定の友人・知人についてさまざまな事柄を尋ねることは、ごく普通に行われていることである。辻の経験でも、そのようなネットワークバッテリーを組み込むことによって調査会社から調査を拒否されたことはなかったことから、社会通念上も倫理的にも何ら問題ないと考えられる。おそらく、コロナ禍中であって、マクロミル社としては、起こりうるさまざまな苦情等に備えて、最大限の防御策を講じたいということではなかったのではなかろうか。センシティブな情報云々というのは、方便に過ぎないと思われる。

最終的には、Q15S1にあるように、「あなたの友人・知人の中に新型コロナウイルス(COVID-19)の感染者はいますか？ その人数をお答えください。」と尋ねることと、対象者がこのような質問がなされる可能性をあらかじめ了解してもらうために、Q1で「当アンケートでは、以下の内容についてお伺いする箇所が含まれております。」とし、その1項目として、「あなたの友人・知人の病歴 ※あなたの友人・知人の病歴については、友人・知人からの同意を代理でお取りいただく必要がございます。」を含めることとした。これに「同意しない」場合は、そこで回答は打ち切りとなり、調査対象者とはしないこととなった。特に※の部分には、文字どおりに調査対象者が従うとすれば、かなり強く回答可能性を制約することになったと思われる。実際にどのくらい調査対象者がまじめにその指示に従ったかどうかはわからないが、2日間で回収が終了したことを考えると、あまり真面目には守られていなかったのではないかと考えられる。しかしともあれ、マクロミル社としては、苦情を回避するために、形式的ではあれ防御策を講じたことにはなっただろう。

### 3. 友人・知人に東日本大震災で亡くなった人がいるかどうかを問う項目

これについては、上の第2項とちがって、特に問題を指摘されなかった。これについては、もはや東日本大震災やその死者について尋ねることはセンシティブでもタブーでもないということなのだろう。ただし、行きがかり上、Q1で「当アンケートでは、以下の内容についてお伺いする箇所が含まれております。」とし、その1項目として、「あなたの身近な方の死」を含めることとした。

これらの制約のため、調査票の練り直しなど困難を強いられることとなったが、調査会社がどのようなことを問題視しているのかが分かったこと、こちらが倫理的に問題ないと考えていても、あちらでは問題があると判断される可能性があることについて理解できたことなど、得るものもあったと思われる。

## 第2章 新型コロナウイルスの影響による余暇活動の変化

新型コロナウイルスの流行によって、社会には大きな変化があった。その1つが、さまざまな活動の「自粛」である。しかしその一方で、政府は、「Go To トラベル」などのキャンペーンのように、経済活動をできる限りで行うことも進めた。このことは、人々の余暇活動にも変化をもたらした。ある余暇活動は縮小や中止を余儀なくされ（あるいは、そのように感じられ）、別の余暇活動は、逆に従来よりも行われるようになった（あるいは、行ってもよいと感じられた）ものもある。そこで本章では、まず第1節で、さまざまな余暇活動を類別するとともに、新型コロナウイルスへの不安によって、それらの余暇活動が抑制されるか、増加するかについて検討する。

次に、人々の接触を避けるため、仕事もなるべく自宅で行うことが政府からも推奨され、在宅勤務あるいはテレワークが多く行われるようになった。そこで第2節では、テレワークの導入と余暇活動との関係について検討する。

### 2-1 新型コロナウイルスへの不安と余暇活動

#### 2-1-1 目的

新型コロナウイルスの流行により、2020年4月に緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出自粛が呼びかけられた。それによって、多くの人々が家で過ごすことを余儀なくされた。そこで、人々は、家でできる余暇活動や、他者との接触をなるべく避けながら行える余暇活動を始めた。また、緊急事態宣言が解かれると、政府は「Go To トラベル」や「Go To イート」などのキャンペーンを行って旅行や飲食店での飲食を奨励し、外出をためらっていた人々の背中を後押しした。

このような自粛やそれからの多少の解放はあったとしても、人々は新型コロナウイルスに対する恐怖や不安を持っており、どのような余暇活動を行うかは、ウイルスの流行以前とは異なっていたものと考えられる。そこで、人々が感じる恐怖や不安の程度によって、どの余暇活動が促進されたり抑制されたりするかを検討する。

#### 2-1-2 先行研究

従来の余暇活動にかんする研究は、多くの場合、平常時における余暇活動を対象としていると言ってよいだろう。阿部・稲倉・小原（2018）は、以下のことを示した。まず、余暇活動の時間とそれに対する支出は、余暇活動の種類によって異なる。また、労働時間が長いほど、余暇活動に当てる時間と支出は、ともに減少する。さらに、世帯収入が高いほど、余暇活動に当てる時間と支出は、ともに増加する。ただし、交際については、労働時間が増えるほど、それに対する支出が増加する。また、女性の場合、美容・理容については、労働時間が長いほど、支出が増加する。これらは、家計が直面する時間制約や予算制約が、余暇活動に対する時間制約や予算制約になっていることを示唆していると言えるだろう。

新型コロナウイルスの流行に伴う自粛や多少の解放は、従来の時間制約や予算制約に加え、新型コロナウイルスにかかわる不安という別の制約が加わった可能性を示唆している。

### 2-1-3 仮説

新型コロナウイルスにかかわる不安としては、まず、単純に感染に対する不安が考えられる。感染は他者との接触によって起こることが知られているから、感染に対する不安感が高い人は、外出をともなう余暇活動を減らすことになるだろう。すなわち、

**仮説 2-1** 新型コロナウイルスが流行してからは、感染に対する不安感が高い人ほど、外出をともなう余暇活動を減らす。

また、新型コロナウイルスの流行により、仕事が減ったり、場合によっては失職したりすることもあったため、自分や家族の将来や家計に対して不安を抱く人も多かった。そのような将来や家計に対する不安感が高い人は、余暇活動を全般的に減らすと考えられる。すなわち、

**仮説 2-2** 新型コロナウイルスが流行してからは、自分の将来や家計についての不安が高い人ほど、余暇活動を減らす。

### 2-1-4 方法

仮説を検討するために、大きく 2 つの準備が必要である。1 つは、余暇活動の分類である。20 個の余暇活動を挙げ、それぞれにかかる時間 (Q4) と金銭 (Q5) の両側面から、主成分分析を用いて少数の余暇活動群を生成する。もう 1 つは、新型コロナウイルスにかかわる恐怖や不安の析出である。新型コロナウイルスに 20 項目の恐怖や不安 (Q9S1~Q9S20) を具体的に挙げ、それらに共通する少数の恐怖感や不安感を因子分析を用いて析出する。

こうした準備の上で、どのような恐怖や不安をいただいていると、どのような活動を行うのか (あるいは、行わないのか) を重回帰分析を用いて検討する。

### 2-1-5 結果

#### 2-1-5-1 余暇活動の主成分分析

はじめに、20 個の余暇活動を挙げ、それぞれについて、それにかかる時間 (Q4) と金銭 (Q5) が増えたか減ったかをまとめて、都合 40 項目の主成分分析を行った。その際、主成分負荷量の低い項目を削除するとともに、標準的な方法ではないかもしれないが、同じ余暇活動の時間と金銭が同じ主成分にまとまることを条件とし、この条件に該当しない項目も削除した。すると、24 項目 (12 個の余暇活動) が、「外出をともなう余暇活動」、「在宅での活動」、「軽い運動やスポーツ」という 3 つの主成分にまとまった (表 2-1) <sup>1</sup>。

---

<sup>1</sup> なお、今後全章にわたり、主成分分析と因子分析の結果として、因子得点ではなく尺度得点 (項目間平均値) を用いることにする。そのため、主成分分析と因子分析の表の末尾に、信頼性係数  $\alpha$  を掲載する。学生に何度も分析のやり直しを命じる際に、因子構造は同じでも因子得点を使うと異なる結果が導かれるなど複雑になるのを避けるためである。

次に、上で削除した 16 項目について、改めて同様の方法で主成分分析を行った。すると、8 項目（4 個の余暇活動）が、「宗教・政治活動」、「テレビ視聴・鑑賞」という 2 つの主成分にまとまった（表 2-2）。なお、主成分寄与率は、最初に示した主成分分析（表 2-1）とは独立に、今回の主成分分析（表 2-2）のみによる主成分寄与率である。

さらに、なお除外された 8 項目について、三たび同様の方法で主成分分析を行った。すると、6 項目（3 個の余暇活動）が、「趣味・娯楽・学習」、「家族だんらん」の 2 つの主成分にまとまった（表 2-3）。

表 2-1 余暇活動にかかわる主成分分析（その 1）

	外出を伴 う活動	在宅での 活動	軽い運動や スポーツ
外出しての鑑賞「金銭」	<b>.734</b>	-.008	.097
宿泊を伴う旅行「金銭」	<b>.725</b>	.054	-.140
日帰りの行楽「金銭」	<b>.702</b>	.101	-.169
外出しての鑑賞「時間」	<b>.692</b>	-.054	.092
遊園地・テーマパークなどで遊ぶ「金銭」	<b>.681</b>	-.076	.090
音楽ライブへの参加、競技場でのスポーツ観戦、祭り・イベントなどへの参加「時間」	<b>.671</b>	-.066	.175
音楽ライブへの参加、競技場でのスポーツ観戦、祭り・イベントなどへの参加「金銭」	<b>.668</b>	.017	.209
外食・ショッピング「時間」	<b>.666</b>	.020	-.139
日帰りの行楽「時間」	<b>.665</b>	.011	-.180
友人などとの対面での交際「金銭」	<b>.663</b>	.001	-.048
宿泊を伴う旅行「時間」	<b>.661</b>	-.074	-.266
友人などとの対面での交際「時間」	<b>.639</b>	-.072	-.113
遊園地・テーマパークなどで遊ぶ「時間」	<b>.612</b>	-.133	.045
外食・ショッピング「金銭」	<b>.570</b>	.020	-.080
-----			
宅配サービスや持ち帰りによる家での食事「時間」	-.096	<b>.662</b>	.093
宅配サービスや持ち帰りによる家での食事「金銭」	-.090	<b>.642</b>	.133
テレビゲーム、オンラインゲームなど「金銭」	.062	<b>.641</b>	-.311
休息・リラククス「金銭」	.035	<b>.597</b>	.083
テレビゲーム、オンラインゲームなど「時間」	-.001	<b>.572</b>	-.285
休息・リラククス「時間」	-.051	<b>.551</b>	.201
ソーシャルメディア、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）などによるオンラインでの交流「時間」	.030	<b>.469</b>	-.200
ソーシャルメディア、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）などによるオンラインでの交流「金銭」	.166	<b>.459</b>	-.294
-----			
軽い運動やスポーツ活動「時間」	.253	.197	<b>.649</b>
軽い運動やスポーツ活動「金銭」	.358	.310	<b>.599</b>
主成分寄与率（%）	27.135	11.962	6.053
信頼性係数 $\alpha$	.906	.721	.698

以上から抽出された7つの主成分を、7種類の余暇活動カテゴリとして、以降の重回帰分析において用いることにした。

表2-2 余暇活動にかかわる主成分分析（その2）

	宗教・政治 活動	テレビ視聴・ 鑑賞
宗教活動「時間」	<b>.752</b>	-.325
宗教活動「金銭」	<b>.721</b>	-.252
政治活動「時間」	<b>.571</b>	-.407
政治活動「金銭」	<b>.554</b>	-.323
在宅での鑑賞「時間」	.437	<b>.595</b>
テレビ・ラジオでのニュース・バラエティ番組・スポーツの視 聴、新聞・雑誌での情報収集「時間」	.339	<b>.566</b>
在宅での鑑賞「金銭」	.454	<b>.526</b>
テレビ・ラジオでのニュース・バラエティ番組・スポーツの視 聴、新聞・雑誌での情報収集「金銭」	.319	<b>.461</b>
主成分寄与率 (%)	29.152	20.043
信頼性係数 $\alpha$	.791	.682

表2-3 余暇活動にかかわる主成分分析（その3）

	趣味・娯楽・学習	家族だんらん
趣味・娯楽「金銭」	<b>.717</b>	-.248
学習活動「金銭」	<b>.696</b>	-.267
趣味・娯楽「時間」	<b>.680</b>	-.076
学習活動「時間」	<b>.603</b>	-.269
家族とのだんらん「金銭」	.354	<b>.788</b>
家族とのだんらん「時間」	.395	<b>.756</b>
主成分寄与率 (%)	35.089	23.408
信頼性係数 $\alpha$	.664	.652

#### 2-1-5-2 新型コロナウイルスにかかわる恐怖や不安の因子分析

次に、新型コロナウイルスに20項目の恐怖や不安（Q9S1～Q9S20）を具体的に挙げ、それらに共通する少数の恐怖感や不安感を因子分析を用いて析出する。因子抽出には最尤法を用い、固有値1以上の因子のみを採用した。また、プロマックス回転を行った。

上記20項目を用いた場合に、因子負荷量の小さな項目が2つ認められたので、これらを削除し、18項目を用いて再度分析したところ、下記のように、自分自身が感染したり他人に感染させたりするのではないかという「感染不安」、感染すると他者から忌避されるのではないかという「忌避不安」、自分や家族に経済的損失があるのではないかという「個人経済的不安」、日本や世界の経済に損失があるのではないかという「社会経済的不安」の4つの因子を得た（表2-4）。

表 2-4 新型コロナウイルスにかかわる恐怖や不安の因子分析 (最尤法・プロマックス回転)

	感染不安	忌避不安	個人経済的不安	社会経済的不安
新型コロナウイルスに感染すれば、重症化したり後遺症が残ってしまうのではないかと思う	<b>.923</b>	-.084	.003	-.068
新型コロナウイルスに感染することが怖い	<b>.883</b>	.004	-.107	.034
新型コロナウイルスの流行が、いつ収束するかわからないのが怖い	<b>.652</b>	.042	.050	.116
新型コロナウイルスに自分が感染したら、他人にうつしてしまうのではないかと思う	<b>.584</b>	-.081	-.048	.275
新型コロナウイルスの拡大写真を見ると怖い	<b>.573</b>	.173	-.007	-.166
新型コロナウイルスの流行後の自分の将来が見通せない	<b>.425</b>	.137	.237	-.022
新型コロナウイルスに感染しても、感染したことを他人には誰にも知られたくない	-.095	<b>.976</b>	-.122	.072
新型コロナウイルスに感染しても、感染したことを友人・知人には知られたくない	-.081	<b>.953</b>	-.092	.035
新型コロナウイルスに感染すると、友人・知人から避けられるのではないかと思う	.147	<b>.623</b>	.035	-.018
新型コロナウイルスに感染すると、友人・知人からひどい扱いを受けるのではないかと思う	.041	<b>.567</b>	.236	-.206
新型コロナウイルスに感染すると、見ず知らずの人からひどい扱いを受けるのではないかと思う	.053	<b>.547</b>	.134	-.031
新型コロナウイルスに感染すると、見ず知らずの人から避けられるのではないかと思う	.141	<b>.518</b>	.024	.143
新型コロナウイルスは、自分や家族に長期的な経済的損失を与える	-.044	-.064	<b>1.008</b>	-.008
新型コロナウイルスは、自分や家族に一時的に大きな経済的損失を与える	-.030	.044	<b>.738</b>	.129
新型コロナウイルスは、自分の友人や知人の多くに経済的損失を与える	.016	.106	<b>.545</b>	.028
新型コロナウイルスは、世界経済に大きな損失を与える	-.002	-.005	-.045	<b>.893</b>
新型コロナウイルスは、日本経済に大きな損失を与える	.017	-.099	.078	<b>.823</b>
新型コロナウイルスによる経済損失が大きく、日本経済は長期的に回復しない	-.038	.154	.089	<b>.643</b>
因子間相関	1.000	.519	.573	.543
		1.000	.579	.290
			1.000	.496
因子寄与率 (%)	41.627	12.743	7.957	5.977
信頼性係数 $\alpha$	.856	.887	.823	.845

### 2-1-5-3 余暇活動を説明する重回帰分析

以上から得られた7つの余暇活動のそれぞれに対して、4つの恐怖や不安がどのくらい影響しているのかを検討するために、重回帰分析を行った。

重回帰分析には、独立変数として4つの恐怖や不安の因子を投入するほか、性別・年齢・教育年数・職業・2019年の個人収入というデモグラフィック変数、および、友人・知人の中に新型コロナウイルスの感染者がいるかどうか(Q15をバイナリ値に変換したもの)を統制変数として投入した。その結果は、下記の表2-5(その1~その4)のとおりである。

表2-5 7つの余暇活動にかかわる重回帰分析(その1)

	外出を伴う活動		在宅での活動	
	標準化偏回帰係数	単相関	標準化偏回帰係数	単相関
感染不安	-.155 **	-.177 **	-.043	.110 *
忌避不安	.054	-.029	-.034	.093 *
個人経済的不安	.041	-.060	.084	.176 **
社会経済的不安	-.090 +	-.156 **	.205 **	.225 **
性別(男:1, 女:2)	-.207 **	-.205 **	.083 +	.123 **
年齢	-.099 *	-.130 **	-.211 **	-.186 **
教育年数	-.147 **	-.149 **	-.023	-.023
職業				
(基準: 販売・サービス)				
農林漁業	.055	.096 *	.122 **	.089 +
技能・労働・作業系	-.057	.111 *	-.032	-.012
事務	-.155 **	-.148 **	-.025	-.036
管理	-.131 *	-.093 *	-.022	-.076
専門	-.065	-.043	.008	.049
個人収入(log)	-.111 *	-.173 **	-.020	-.053
結婚(現在結婚:1)	-.056	-.126 **	.053	-.011
F	6.743 ***		4.159 ***	
R <sup>2</sup>	.178		.118	
Adj. R <sup>2</sup>	.152		.089	

N = 451, + p < .10, \* p < .05, \*\* p < .01. F値についてのみ \*\*\* p < .001, 以下同様。



表 2-5 7つの余暇活動にかかわる重回帰分析 (その2)

	軽い運動やスポーツ		宗教・政治活動	
	標準化偏回帰係数	単相関	標準化偏回帰係数	単相関
感染不安	-.086	-.067	-.114 +	-.010
忌避不安	-.066	-.062	-.017	.008
個人経済的不安	.025	-.009	.060	.084 +
社会経済的不安	.082	.028	.149 *	.123 **
性別 (男:1, 女:2)	-.023	-.035	.044	.030
年齢	-.106 *	-.072	-.045	-.046
教育年数	-.101 +	-.055	-.023	-.036
職業				
(基準: 販売・サービス)				
農林漁業	.076	.061	.053	.053
技能・労働・作業系	-.005	.017	-.024	.045
事務	-.054	-.115 *	-.104 +	-.088 +
管理	.055	.044	-.004	-.005
専門	.084	.075	-.063	-.020
個人収入(log)	.040	.022	-.027	-.051
結婚 (現在結婚:1)	.021	.017	-.011	-.030
F	1.524 +		1.388	
R <sup>2</sup>	.047		.043	
Adj. R <sup>2</sup>	.016		.012	

表 2-5 7つの余暇活動にかかわる重回帰分析 (その3)

	テレビ視聴・鑑賞		趣味・娯楽・学習	
	標準化偏回帰係数	単相関	標準化偏回帰係数	単相関
感染不安	.143 *	.235 **	-.078	-.017
忌避不安	.010	.168 **	.038	.049
個人経済的不安	.074	.211 **	.013	.046
社会経済的不安	.089	.193 **	.065	.046
性別 (男:1, 女:2)	.022	.091 +	.052	.043
年齢	-.114 *	-.099 *	-.175 **	-.171 **
教育年数	-.041	-.051	-.082	-.054
職業				
(基準: 販売・サービス)				
農林漁業	.155 **	.129 **	.118 *	.095 *
技能・労働・作業系	-.017	-.031	-.002	.041
事務	.011	-.007	-.121 *	-.131 **
管理	.012	-.053	-.013	-.039
専門	.029	.034	.026	.069
個人収入(log)	.011	-.041	.106 *	.039
結婚 (現在結婚:1)	-.026	-.031	-.033	-.049
F	3.635 ***		2.656 ***	
R <sup>2</sup>	.105		.079	
Adj. R <sup>2</sup>	.076		.049	

表 2-5 7つの余暇活動にかかわる重回帰分析 (その 4)

	家族だんらん	
	標準化偏回帰係数	単相関
感染不安	.068	.175 **
忌避不安	.074	.178 **
個人経済的不安	.056	.146 **
社会経済的不安	-.024	.081 +
性別 (男:1, 女:2)	.119 *	.150 **
年齢	-.113 *	-.054
教育年数	.016	.018
職業 (基準: 販売・サービス)		
農林漁業	.099 *	.066
技能・労働・作業系	.029	-.069
事務	.093	.036
管理	.004	-.039
専門	.094	.097 *
個人収入(log)	.017	.051
結婚 (現在結婚:1)	.234 **	.208 **
F	4.315 ***	
R <sup>2</sup>	.122	
Adj. R <sup>2</sup>	.093	

これらの結果をさらにまとめると、次の表 2-6 のとおりである。すなわち、感染不安が高い人ほど、外出を伴う活動を行わず、テレビ視聴や鑑賞を行う。社会経済的不安が高い人ほど、在宅で活動したり、宗教・政治活動を行う。

表 2-6 重回帰分析のまとめ

	効果のある主な変数	効果のある統制変数
外出を伴う活動	感染不安(--)	男性(++), 年齢(-), 教育年数(--), 事務(--), 管理(-), 個人収入(-)
在宅での活動	社会経済的不安(++)	年齢(++), 農林漁業(++)
軽い運動やスポーツ		年齢(-)
宗教・政治活動	社会経済的不安(+)	
テレビ視聴・鑑賞	感染不安(+)	年齢(-), 農林漁業(++)
趣味・娯楽・学習		年齢(--), 農林漁業(+), 事務(-)
家族だんらん		女性(+), 年齢(-), 農林漁業(+), 結婚(++)

+は正の効果, -は負の効果。+または-の記号の個数: 1つは 5%水準, 2つは 1%水準で有意であることを表す。

### 2-1-6 考察

これらの結果から、仮説 2-1 (新型コロナウイルスが流行してからは、感染に対する不

不安が高い人ほど、外出をとまなう余暇活動を減らす)について考えてみると、まず、外出をとまなう余暇活動とは、これらの活動カテゴリの中では、「外出を伴う活動」全般、「軽い運動やスポーツ」の一部、「宗教・政治活動」の一部、「趣味・娯楽・学習」の一部が該当するだろう。このうち、「外出を伴う活動」については統計的に正に有意なので支持されるが、他の要因については、有意な効果は認められなかった。よって、仮説 2-1 は、部分的に支持された。

仮説 2-2 (新型コロナウイルスが流行してからは、自分の将来や家計についての不安が高い人ほど、余暇活動を減らす)については、「世帯収入」がいずれの余暇活動とも有意な効果を持たなかったため、支持されなかった。

なお、「社会経済的不安」にかかわる仮説はなかったが、(繰り返しになるが、) そのような不安を持つ人々は、「在宅での活動」や「宗教・政治活動」を行っていた。

全体として、感染に対する不安感が高い人は、外出をとまなう活動(たとえば、旅行や行楽に出かけたり、ライブに出かけたり、友人などと対面で交際するなど)を控えていたが、外出を伴うものであっても、軽い運動やスポーツ、宗教・政治活動、趣味・娯楽・学習などを控えたわけではなかった。感染に対する不安感があったとしても、外出しないで籠もりきりというわけにもいかず、いわゆる「3密」を避けながらも、できる限りの活動を模索していた様子が浮かび上がった。

また、新型コロナウイルスが日本経済・世界経済に影響を与え、日本経済は長期的に回復しないという「社会経済的不安」を抱いている人々は、宅配サービスや持ち帰りで食事を楽しんだり、テレビゲームやオンラインゲームに興じるなど、在宅での活動を行った。このような不安は、自分と直接に関係のある他者との間に感染を予防しようとするだけではなく、自分が社会の一員として誰にも感染させないという責任を果たそうとしていたことを示しているのではないだろうか。また、「社会経済的不安」を抱いている人は、宗教的活動(内容までは問うていないが、祈祷などを行ったのかもしれない)や、政治的活動(これも内容までは問うていないが、政策の提言などが考えられる)を行ったりしていた。これも、このような不安を抱く人々が、社会全体の安定や安寧を願っていたことの現れと考えられる。

## 2-2 テレワークと余暇活動

### 2-2-1 目的

新型コロナウイルスの流行は、人々の働き方の変化をもたらした。政府が接触の回避を呼びかけ、その一環として在宅勤務を含むテレワークの導入を企業に求めた。テレワークとは、厚生労働省の定義によると「情報通信技術 (ICT=Information and Communication Technology) を活用した時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方」のことであり、Tel (離れて) と Work (仕事) を組み合わせた造語である。会社には通勤せず、在宅もしくは別の場所で働き、コミュニケーションは、オンライン会議など ICT を利用して行うという勤務形態のことである。

テレワークは、職種・業種や、さまざまな条件によって、導入がたやすかったり難しかったり

たりするため、個人レベルで見れば、新型コロナウイルスの流行以前とほとんど勤務の仕方が変わらない人もいれば、テレワークが導入されて基本的に在宅勤務となった人もいて、分散は大きくなったと言える。

テレワークが大幅に導入された場合には、通勤時間や移動時間が削減され、在宅の時間が増えたことによって、余暇活動が増加し、それに費やす時間や金銭が増えた可能性がある。本節では、実際に何が起こっていたのかを明らかにすることを目的とする。

### 2-2-2 先行研究と仮説

テレワーク導入の労働時間に対する効果について、萩原・久米 (2017) は、ヨーロッパにおける動向を下記のようにまとめている。テレワーク実施者の労働時間は、非実施者に比べて長くなる傾向があるという調査報告がある (Eurofound and ILO 2017)。ここから、在宅の時間が増えても、それが単純に余暇活動に結びつかないことが示唆される。

また、テレワーク実施者の自己報告では、テレワークによって通勤時間が削減され、家族と過ごす時間が増えた一方、労働時間も長くなり、有償労働とパーソナルな時間の境界が明確ではなくなってきたという人もいた。また、フランスの調査では、在宅テレワーク実施者の 61% は、労働時間は長くなったものの、通勤時間の削減によってできた時間を家族と過ごしたり、個人的な活動に充てたり、地域コミュニティの活動に充てたと回答している (Lasfargue and Fauconnier 2015)。

このように、テレワークは労働時間の増加をもたらす可能性がある一方で、パーソナルな時間を獲得しやすくなり、ワークライフバランスを実現しやすくなる可能性もある。Ojala (2011) によると、性別による違いもあり、女性は、上述のように、ワークライフバランスや家事の遂行のためにテレワークを実施する傾向があるが、男性は、テレワークを実施する動機は家族と過ごすことではなく仕事の遅れを取り戻すことにあるようだ。

以上から、次のように予想される。まず、先行研究では支持されていないものの、テレワークの導入は通勤時間や移動時間が削減されるため、その余剰時間を余暇に充てたと考えられる。男性は比較的単純で、テレワークの増加によって、余暇活動が増えるということはないだろう。女性の場合は、ワークライフバランスを追求する人は、仕事の時間も増える一方余暇活動も増えると考えられるが、家事の遂行だけに仕事時間以外の時間が取られてしまうと、余暇活動は増えないと考えられる。ここから女性全体で考えると、テレワークの増加は余暇活動を少し増加させる可能性がある。しかし、未婚の女性の場合は、それほど家事が増えないと思われるので、余暇活動は増加した可能性がある。ただし、このことは、男性にも言えることである。

以上をふまえて、テレワークが余暇に与える効果として、次のような仮説が成り立つ。

**仮説 2-3** 新型コロナウイルスが流行してからは、テレワークの導入により余暇活動は増加した。

**仮説 2-4** 新型コロナウイルスが流行してからは、男性のテレワーク実施者の余暇活動は変わらなかった。

**仮説 2-5** 新型コロナウイルスが流行してからは、女性のテレワーク実施者の余暇活動は少し増えた。

**仮説 2-6** 新型コロナウイルスが流行してからは、未婚者の余暇活動は少し増えた。

### 2-2-3 方法

まず、余暇活動にかかわる時間とお金の分類については、2-1節と同じ分類を使用する。次に、仮説 2-3 と仮説 2-6 は、それぞれテレワーク導入による労働時間の増減と婚姻状況（現時点において結婚しているか否か）の主効果について問うていると考える。このうち、テレワーク導入による「労働時間の増減」は、緊急事態宣言以降のテレワークの日数（Q26S2）からそれ以前のテレワークの日数（Q26S1）を引いたものとする。テレワークによる「労働時間の増減」の効果を確認するために、そもそもの「緊急事態宣言以前のテレワークの日数」（Q26S1）と併せて重回帰分析に投入することとする。これを「モデル A」と呼ぶ。

一方、仮説 2-4 は、男性でありかつテレワークの実施者であることの効果なので、性別の変数から、男性ならば 1 女性ならば 0 に変換した上で、これとテレワークの日数の増減を掛けた交互作用項（センタリングはしない）を算出し、「男性テレワーク」変数とした。一種の交互作用項であるが、男性のテレワークの増減の値のみが変化する性質を持っている（働く女性については、全て 0 の値を取る）。同様に、仮説 2-5 は、女性でありかつテレワークの実施者であることの効果なので、男性ならば 0、女性ならば 1 に変換した上で、これとテレワークの日数の増減を掛けた交互作用項（センタリングはしない）を算出し、「女性テレワーク」変数とした。重回帰分析においては、単純な「労働時間の増減」の代わりに「男性テレワーク」を投入し、それに加えて「緊急事態宣言以前のテレワークの日数」も併せて投入することとする。これを「モデル B」と呼ぶ。また同様に、「女性テレワーク」と「緊急事態宣言以前のテレワークの日数」を併せて投入したものも検討する。これを「モデル C」と呼ぶ。

### 2-2-4 結果

従属変数は、2-1節と同様に、7つの余暇活動であるが、「モデル A」、「モデル B」、「モデル C」を検討すると、都合 21 回の重回帰分析を行うことになる。その結果を全て示すことは煩雑になるので、仮説 2-3 から仮説 2-6 にかかわる変数や交互作用項が有意になるものだけを取り上げて示す。以下に取り上げられなかったケースについては、仮説 2-3 から仮説 2-6 はいずれも支持されなかったということである。

表 2-7 7つの余暇活動とテレワークにかかわる重回帰分析 (その1)

	テレビ視聴・鑑賞		家族だんらん	
	標準化偏回帰係数	単相関	標準化偏回帰係数	単相関
緊急事態宣言以前の テレワーク日数	.122 *	.113 *	.065	.020
テレワークの増減	.025	-.025	.091 +	.078 +
性別 (男:1, 女:2)	.092 +	.091 +	.155 **	.150 **
年齢	-.123 *	-.099 *	-.120 *	-.054
教育年数	-.055	-.051	-.005	.018
職業 (基準: 販売・サービス)				
農林漁業	.135 **	.129 **	.094 *	.066
技能・労働・作業系	-.015	-.031	.027	-.069
事務	-.003	-.007	.080	.036
管理	-.010	-.053	-.015	-.039
専門	.013	.034	.082	.097 *
個人収入(log)	-.001	-.041	.005	.051
結婚 (現在結婚:1)	.011	-.031	.257 **	.208 **
F	2.127 *		4.398 ***	
R <sup>2</sup>	.055		.108	
Adj. R <sup>2</sup>	.029		.083	

N = 451, + p < .10, \* p < .05, \*\* p < .01. F 値についてのみ \*\*\* p < .001, 以下同様.

表 2-7 7つの余暇活動とテレワークにかかわる重回帰分析 (その2)

	テレビ視聴・鑑賞		家族だんらん	
	標準化偏回帰係数	単相関	標準化偏回帰係数	単相関
緊急事態宣言以前の テレワーク日数	.133 **	.113 *	.048	.020
男性のテレワークの増減	.074	-.001	.062	.030
性別 (男:1, 女:2)	.109 *	.091 +	.166 **	.150 **
年齢	-.123 *	-.099 *	-.126 **	-.054
教育年数	-.059	-.051	-.001	.018
職業 (基準: 販売・サービス)				
農林漁業	.139 **	.129 **	.097 *	.066
技能・労働・作業系	-.006	-.031	.028	-.069
事務	-.004	-.007	.083	.036
管理	-.012	-.053	-.013	-.039
専門	.009	.034	.082	.097 *
個人収入(log)	-.001	-.041	.008	.051
結婚 (現在結婚:1)	.009	-.031	.255 **	.208 **
F	2.287 **		4.237 ***	
R <sup>2</sup>	.059		.104	
Adj. R <sup>2</sup>	.033		.079	

表 2-7 7つの余暇活動とテレワークにかかわる重回帰分析（その3）

	テレビ視聴・鑑賞		家族だんらん	
	標準化偏回帰係数	単相関	標準化偏回帰係数	単相関
緊急事態宣言以前の テレワーク日数	.104 *	.113 *	.045	.020
女性のテレワークの増減	-.039	-.035	.057	.079 +
性別（男:1, 女:2）	.098 +	.091 +	.139 **	.150 **
年齢	-.128 *	-.099 *	-.122 *	-.054
教育年数	-.050	-.051	.001	.018
職業 （基準：販売・サービス）				
農林漁業	.137 **	.129 **	.091 +	.066
技能・労働・作業系	-.017	-.031	.017	-.069
事務	.000	-.007	.082	.036
管理	-.007	-.053	-.011	-.039
専門	.015	.034	.086	.097 *
個人収入(log)	.002	-.041	.006	.051
結婚（現在結婚:1）	.009	-.031	.259 **	.208 **
F	2.162 *		4.226 ***	
R <sup>2</sup>	.056		.104	
Adj. R <sup>2</sup>	.030		.079	

上の表 2-7 のその 1~その 3 に見るように、「緊急事態宣言以前のテレワーク日数」、男女込みの「テレワークの増減」、「男性のテレワークの増減」、「女性のテレワークの増減」、「結婚」のいずれかが、余暇活動に影響を与えたものは、「テレビ視聴・鑑賞」と「家族だんらん」のみであった。

「テレビ視聴・鑑賞」については、その 1~その 3 のいずれにおいても「緊急事態宣言以前のテレワーク日数」のみが正の効果を持っていた。つまり、緊急事態宣言以前にテレワークの日数が多かった人ほど、テレビの視聴・鑑賞をしていたことになる。しかし、緊急事態宣言以降のテレワーク日数の増減は、テレビの視聴・鑑賞に対して効果を持たなかった。

「家族だんらん」については、その 1~その 3 のいずれにおいても「結婚」していることが正の効果を持っていた。核家族において、自らが結婚していれば、子どもを含めてだんらんするが、核家族でも、自らは結婚しておらず両親の庇護のもとにあるような場合には、積極的にはだんらんしないということだろう。また、男女込みの「テレワークの増減」が、10%水準の有意傾向ではあるが正の効果を持っていた。テレワークが増えると家族だんらんも増えるということであるが、「男性のテレワークの増減」や「女性のテレワークの増減」のみの効果はなかったことから、テレワークが増えると家族のだんらんも増えると結論づけるのは早計かもしれない。

### 2-2-5 考察

以上の結果から、テレワークが増えることによって、各種の余暇活動が増えるということはありませんでしたということになるだろう。

仮説 2-3 (新型コロナウイルスが流行してからは、テレワークの導入により余暇活動は増加した) については、そのような余暇活動はなかった。「テレビ視聴・鑑賞」は、緊急事態宣言以前のテレワーク日数とは関係しているが、それは流行後のテレワークの増減とは無関係である。よって、仮説 2-3 は支持されなかった。

仮説 2-4 (新型コロナウイルスが流行してからは、男性のテレワーク実施者の余暇活動は変わらなかった) と仮説 2-5 (新型コロナウイルスが流行してからは、女性のテレワーク実施者の余暇活動は変わらなかった) についても、表 2-7 のその 2 とその 3 より、それらの変数はどの余暇活動についても効果はなかった。したがって、仮説 2-4 も仮説 2-5 も支持されなかった。

仮説 2-6 (新型コロナウイルスが流行してからは、未婚者の余暇活動は少し増えた) については、婚姻が負に有意な活動はなかったので、仮説 2-6 も支持されなかった。

結局のところ、仮説 2-3 から仮説 2-6 は、いずれも支持されなかった。

2-1 節の結果も併せて考えると、感染不安のある人は、外出を伴う活動を控え、テレビ視聴・鑑賞を行ったり、社会経済的不安のある人は、在宅での活動や宗教・政治活動を行っていた。しかし、テレワークが原因で生じた余暇活動の変化はなかったのである。テレワークで通勤時間や移動時間がなくなったとしても、それはあくまでも仕事のために充てられたのだらうと考えられる。

## 引用文献

- 阿部修人・稲倉典子・小原美紀, 2018, 「余暇への時間・金銭投入に関する一考察」『経済研究』 69(4): 289 - 313.
- Eurofound and the International Labour Office, 2017, *Working anytime, anywhere: The effects on the world of work*, Publications Office of the European Union, and the International Labour Office.
- 萩原牧子・久米功一, 2017, 「テレワークは長時間労働を招くのか: 雇用型テレワークの実態と効果」『研究紀要』 12(5): 58 - 67.
- Lasfargue, Y. and Fauconnier, S., 2015, *Enquête 2015 sur les impacts du télétravail [2015 Survey on the impacts of telework]*, OBERGO, Paris.
- Ojala, S. 2011, “Supplemental work at home among Finnish wage earners: Involuntary overtime or taking the advantage of flexibility?” *Nordic Journal of Working Life Studies*, 1(2): 77 - 97.



### 第3章 新型コロナウイルスの流行にかかわる情報伝達

2020年2月のクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」の内部での新型コロナウイルスの流行が報じられると、人々は、日々その感染状況を知るためにマスメディアの報道に注目し始めた。そしていよいよ国内での感染が増加し始めると、人々は、毎日のように居住する都道府県と全国の感染状況を確認するようになっていった。しかし、そのうち、首都圏や関西圏などの大都市圏での感染者数は、それ以外の地域における感染者数よりもずっと多いこともわかってきた。もちろん、人口自体が違うので、感染者数はそれに応じて違うわけだから、感染者数よりも感染率の方が流行の状況をより適切に捉えられるはずだが、マスメディアは、感染率ではなく感染者数を報じた。このことは、感染者数の多い大都市圏と感染者数の少ない地方との間に、情報を把握するための行動に違いを生み出した可能性がある。第1節では、このことについて検討する。

ところで、新型コロナウイルスに感染してしまった人に対して、それを非難したり、差別をしたりする風潮があることも、マスメディアやSNSなどを通じて明らかになった。このことから、人々は、実際に感染した場合はもちろん、今後もし感染した場合にも、その事実を他人に安易に漏らしてはいけないと予防線を張るようになった。そのため、その裏返しとして、誰かが新型コロナウイルスに感染したという情報は、価値の大きい情報であり、自分が伝え聞いた情報を、誰かに「これは、秘密だよ」などと言いながら語ることは、大いに自慢になり満足感を得られることになったものと思われる。そこで第2節では、「誰かが感染した」という情報を受け取ったり、それを他者に伝えたりする行動について検討する。

新型コロナウイルスの流行が始まると、感染者と接触があったかどうかをスマートフォンのGPS情報によって確認するアプリケーション（コンタクト・トレーシングアプリ）が各国で開発された。日本においても、厚生労働省が開発したCOCOAというシステムが開発された。しかしながら、厚生労働省がウェブサイトで公表する数値によれば、本調査が行われる最新時点である11月6日時点でのダウンロード数は1938万件（ただし、再度ダウンロードした場合、複数回カウントされる場合がある）、陽性登録件数2168件となっている。仮に1938万件に重複がないとしても、2019年10月1日現在の確定した人口は126167千人、11月6日時点での感染者数は104533人だったから、ダウンロード率は、15.4%、感染者登録率（陽性登録件数 / 感染者数）は、2.1%にすぎない。これでは、感染者との接触があっても、検知されないことの方がずっと多いだろうし、精度も低い。では、なぜ人々はダウンロードしようとならないのだろうか？ 一方、なぜ、一部の人はダウンロードしたのだろうか？ そこで、第3節では、彼らのアプリに対する期待や不安の違いがあるかどうかについて検討する。

このように、本章では、新型コロナウイルスの情報伝達にかんする3つの側面について検討する。

### 3-1 新型コロナウイルスにかかわる情報探索と地域差

#### 3-1-1 目的と仮説

新型コロナウイルスの流行が始まると、マスメディアは、その日の各都道府県の感染者数を報道し始めた。その数自体は、各都道府県から発表されるものであり、各都道府県により数え間違いがなければ、報道自体に間違いはないだろう。しかしながら、各都道府県の人口は違っているので、個々人にとって、居住する都道府県においてどのくらい感染が広がっているのかを把握するためには、感染率、すなわち、各都道府県の感染者数 / 各都道府県の人口を示した方が適切であったかもしれない。実際、感染者数の多い首都圏や関西圏をはじめとする大都市圏では、感染が大いに広がっているように感じられたり、それ以外の地方では、感染はほとんど広がっていないと感じられることもあったようである。それはたとえば、緊急事態宣言が発出されたころに、地方の人々にインタビューするマスメディアの映像を見ると、その県にはほとんど感染者がいないのに緊急事態などと言われても実感が無いといった趣旨の発言があったことが示唆している。

ここから、人々は、感染率よりも感染者数の多寡によって、情報探索のインセンティブが違ってくると予想し、次の2つの仮説を立てた。

**仮説3-1** 新型コロナウイルスの感染者の多い都道府県の人ほど、新型コロナウイルスにかかわる情報を頻繁に探索する。

**仮説3-2** 新型コロナウイルスの感染率の高い都道府県の人が、新型コロナウイルスにかかわる情報を頻繁に探索するわけではない。

#### 3-1-2 方法

まず、調査前日にあたる11月12日時点での各都道府県における新型コロナウイルス感染者数と、前年10月1日付けの確定された都道府県人口をもとにして、各都道府県の感染率を計算する。そして、感染者数と感染率をデータセットにマージする。このとき、同一都道府県に住む人々には、同じ感染者数と感染率の値が割り当てられる。なお、感染者数は、大都市部で桁違いに多いので、そのままの数を分析に投入するのは適切でないと考えられる。そこで、感染者数を自然対数に変換したものを分析には用いることにする。

次に新型コロナウイルスにかかわる情報をどこからどのくらいの頻度で入手しているかを主成分分析し、情報入手先として類似の傾向を持つメディアをいくつかの群にまとめる。各個人には、主成分得点を割り当てる。

その上で、感染者数もしくは感染率を説明変数（独立変数）、各群の主成分得点を目的変数（従属変数）とした重回帰分析を行う<sup>1</sup>。

---

<sup>1</sup> 感染者数や感染率は、都道府県レベルで決まっているため、本来であれば、マルチレベル分析を行う方がよいが、本学部カリキュラムにおける統計学で扱う範疇を越えるので、次善策として重回帰分析を行うこととする。

### 3-1-3 結果と考察

#### 3-1-3-1 情報入手先とその頻度にかかわる主成分分析

新型コロナウイルスにかかわる情報をどこからどのくらいの頻度で入手しているか (Q2) を主成分分析し、情報入手先として類似の傾向を持つメディアを3つの群にまとめた。

表3-1 新型コロナウイルスにかかわる情報の入手先と頻度にかかわる主成分分析

	その他の メディア	新聞・ テレビ	ネット・ SNS
医師や病院のウェブサイト、医師や病院がソーシャル・メディアで発する情報	<b>.818</b>	-.172	-.083
海外の各国政府や国連、各国の公衆衛生部門や世界保健機関、各国の外交部門・大使館等のウェブサイト、それらがソーシャル・メディアで発する情報	<b>.817</b>	-.262	-.102
医学誌などの専門誌、医学会・医学誌のウェブサイト、医学会・医学誌がソーシャル・メディアで発する情報	<b>.817</b>	-.187	-.015
海外のマスメディアのウェブサイト、海外のマスメディアがソーシャル・メディアで発する情報	<b>.799</b>	-.204	-.131
政府や厚生労働省のウェブサイト、政府や厚生労働省がソーシャル・メディアで発する情報	<b>.772</b>	-.186	-.154
上記以外の国内のマスメディア（通信社など）、そのマスメディアのウェブサイト、そのマスメディアがソーシャル・メディアで発する情報	<b>.691</b>	.259	.141
週刊誌の記事、週刊誌のウェブサイト、週刊誌がソーシャル・メディアで発する情報	<b>.677</b>	.271	.041
都道府県や市区町村のウェブサイト、都道府県や市区町村がソーシャル・メディアで発する情報	<b>.669</b>	-.074	-.134
テレビ放送、テレビのウェブサイト、テレビがソーシャル・メディアで発する情報	.131	<b>.739</b>	-.237
新聞の紙面、新聞のウェブサイト、新聞がソーシャル・メディアで発する情報	.400	<b>.518</b>	-.465
ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) で不特定の人々が発信した情報	.510	.082	<b>.638</b>
ネットメディア（新聞やテレビなどのマスメディアではない）のウェブサイト、ネットメディアがソーシャル・メディアで発する情報	.428	.364	<b>.569</b>
主成分寄与率 (%)	43.692	10.900	9.166
信頼性係数 $\alpha$	.891	.389	.534

#### 3-1-3-2 情報入手先とその頻度にかかわる重回帰分析

次に、この3つの主成分のそれぞれを目的変数（従属変数）とし、感染者数を自然対数に

変換したものを説明変数（独立変数）とし、デモグラフィック変数を統制した重回帰分析を行った。表3-2から表3-4がその結果である。

各表において、モデル1は、対象者の居住都道府県における感染者数を自然対数に変換したものを説明変数としたモデルであり、モデル2は、感染者数を各都道府県の人口で割った感染率を説明変数としたモデルである。

表3-2 新聞・テレビからの情報入手頻度にかかわる重回帰分析

	モデル1		モデル2		単相関
	標準化偏回帰係数		標準化偏回帰係数		
感染者数(log)	-.081 +				-.066
感染率			-.058		-.032
性別（男:1, 女:2）	-.048		-.046		-.073
年齢	.210 **		.215 **		.193 **
学歴	.020		.019		.058
個人収入(log)	.030		.028		.117 *
雇用形態（基準：正規）					
経営	.075		.072		.072
臨時・パート・アルバイト	-.109 +		-.111 +		-.134 **
派遣・契約・嘱託	-.051		-.054		-.009
自営・自由	.023		.022		.082 +
無職・家事	.000		.000		.000
学生・生徒	.000		.000		.000
職業（基準：事務）					
農林漁業	-.073		-.067		-.014
技能・労働・作業系	-.044		-.043		-.057
販売・サービス	-.058		-.058		-.087 +
管理	-.058		-.059		.020
専門	.043		.044		.093 *
F	2.611 ***		2.513 **		
R <sup>2</sup>	.088		.085		
Adj. R <sup>2</sup>	.054		.051		

N = 451, + p < .10, \* p < .05, \*\* p < .01. F 値についてのみ \*\*\* p < .001, 以下同様。

表3-2からは、10%水準ではあるが、感染者数を説明変数としたときに、新聞・テレビからの情報入手頻度に対して効果が認められた。しかし、感染率は効果がなかった。また、表3-3、表3-4からは、どちらを説明変数としても、ネット・SNSに対しても、その他の情報源に対しても効果はなかった。

ここから、仮説3-1については、目的変数が新聞・テレビの場合のみに支持され、仮説3-2については、全面的に支持された。

すなわち、（感染率ではなく、）感染者数が多い都道府県の人ほど、新聞やテレビからより頻繁に情報を得ようとする傾向があることが示された。

ただし、注釈1に記したように、感染率も感染者数も都道府県レベルの変数であり、それを説明変数に使った分析では、生態学的誤謬が生じる可能性もあるので、注意が必要である。

表3-3 ネット・SNSからの情報入手頻度にかかわる重回帰分析

	モデル1		モデル2		単相関
	標準化偏回帰係数		標準化偏回帰係数		
感染者数(log)	-.068				-.034
感染率			-.055		-.032
性別 (男:1, 女:2)	.011		.012		.011
年齢	-.303 **		-.299 **		-.278 **
学歴	-.005		-.006		.023
個人収入(log)	-.017		-.018		-.014
雇用形態 (基準: 正規)					
経営	.089 +		.087 +		.107 *
臨時・パート・アルバイト	-.057		-.059		-.107 *
派遣・契約・嘱託	.062		.059		-.012
自営・自由	.006		.006		-.034
無職・家事	.000		.000		.000
学生・生徒	.000		.000		.000
職業 (基準: 事務)					
農林漁業	-.001		.004		-.008
技能・労働・作業系	-.053		-.053		-.038
販売・サービス	-.044		-.044		-.049
管理	.086 +		.086 +		.059
専門	.010		.010		.040
F	3.390 ***		3.338 ***		
R <sup>2</sup>	.111		.110		
Adj. R <sup>2</sup>	.078		.077		

表3-4 その他の情報源からの情報入手頻度にかかわる重回帰分析

	モデル1		モデル2		単相関
	標準化偏回帰係数		標準化偏回帰係数		
感染者数(log)	.000				-.007
感染率			.004		.000
性別 (男:1, 女:2)	-.099 +		-.098 +		-.043
年齢	-.078		-.078		-.075
学歴	-.130 **		-.131 **		-.080 +
個人収入(log)	-.055		-.055		-.034
雇用形態 (基準: 正規)					
経営	.131 **		.131 **		.141 **
臨時・パート・アルバイト	.016		.016		-.016
派遣・契約・嘱託	-.050		-.050		-.090 +
自営・自由	-.011		-.011		.018
無職・家事	.000		.000		.000
学生・生徒	.000		.000		.000
職業 (基準: 事務)					
農林漁業	.071		.072		.092 +
技能・労働・作業系	-.166 **		-.166 **		-.104 *
販売・サービス	-.084		-.083		-.040
管理	-.009		-.009		.029
専門	.025		.025		.066
F	2.155 **		2.155 **		
R <sup>2</sup>	.074		.074		
Adj. R <sup>2</sup>	.039		.039		

## 3-2 新型コロナウイルスの感染情報の受信と送信

### 3-2-1 目的と仮説

新型コロナウイルスに感染してしまった人に対して、それを非難したり、差別をしたりする風潮があることも、マスメディアや SNS などを通じて明らかになった。三浦・平石・中西・Ortolani (2020) によると、他国と比べて日本は、新型コロナウイルスに感染するのは「自業自得」と考えているとのことであり、非難や差別も他国以上に厳しい可能性がある。このことから、人々は、実際に感染した場合はもちろん、今後もし感染した場合にも、その事実を他人に安易に漏らしてはいけなと予防線を張るようになった。

その裏返しとして、誰かが新型コロナウイルスに感染したという情報は、価値の大きい情報であり、自分が伝え聞いた情報を、誰かに「これは、秘密だよ」などと言いながら語ることは、自分が情報通であることを分かってもらえるという意味で、大いに自慢になり満足感を得られることになった可能性がある。そこで、「誰かが感染した」という情報を受け取ったり、それを他者に伝えたりする行動について検討する。

誰が感染したかという情報は、秘密性が高いとはいえ、居住地域の性質によって、伝わりやすさは違ってくると考えられる。たとえば、農村部では、一般に何かが起こるとそのことはすぐに集落の中に伝わってしまう(辻・村山, 2012)。しかし、新型コロナウイルスに感染したという情報がすぐに村中に伝わってしまうかという点、そうかもしれないし、そうではないかもしれない。そうかもしれないという理由は、それが農村部における一般的な様子であるからである。他方、そうではないかもしれない理由は、感染した人は、集落の人々からの非難や差別におびえ、感染したことを家族の中だけにとどめ、他人にそのことを知られまいとするからである。何を家中にとどめおくかについて、農村部は厳格である。情報はひた隠しにされ、外部には漏れ出ないかもしれない。また、仮に外部の人が感染情報を知ることになっても、それを安易に漏らしたりすれば、漏らした点について非難されることになるので、その先には伝わりにくいだろう。すなわち、農村部では、情報は受け取られにくいし、その先に伝えられることも起こりにくいと考えられる。

一方、都市部においてはどうか。都市部においても、感染者を非難したり、差別したりすることはあるだろう。だから、感染した当人は、進んでそれを口外することはないだろう。しかし、それでも何らかの形で情報が露見することはあるかもしれない。そうになると、都市部においては、コンサマトリーなコミュニケーション——それ自体に目的のある自己消費的コミュニケーション——として(池田, 2000)、身近な誰かが感染したことを知っていることを、話のネタや、自分が情報通であることを自慢する目的で、伝達することがあるかもしれない。たとえば、自分の会社で感染者が出たことを、趣味のグループで話すような場合である。趣味のグループに会社の人がいなければ、感染した会社の人に実害を与えることを気にすることなく語れるのである。あるいは、地域社会においても、そもそも交流は少なく利害関係があるわけでもないの、町内の誰かが感染したらしいという話は、井戸端会議のような場でコンサマトリーなコミュニケーションとして楽しめる可能性がある。すなわち、都市部では、情報は受け取られやすいし、その先に伝えられることも起こりやすいと考えられる。

**仮説3-3** 農村部では、誰かが新型コロナウイルスに感染したという情報は、受信されにくく、また、他の人にも送信されにくい。

**仮説3-4** 都市部では、誰かが新型コロナウイルスに感染したという情報は、受信されやすく、また、他の人にも送信されやすい。

### 3-2-2 方法

まず、都市部と農村部の区別については、対象者に「あなたが住んでいるところは、どのようなところですか。最も当てはまると思うところを選んでください。」(Q31)と問い、選択肢として、「大都市の中心部」、「大都市の郊外」、「中小都市の中心部」、「中小都市の郊外」、「農村・漁村、田舎」を与えた。これを「地域の区分」と考える。このような問い方をするのは、あまり前例はないかもしれない。これは、調査対象者に主観的な判断を求める方法ではあり、対象者がきちんと判断できるのかとか、そもそもこの区分は適切なのか、という問題はある。しかし一方で、政令指定都市でも農村部が存在していることもあり、居住市町村を問うだけでは不十分である。より詳細に町丁字まで住所を問う方法もあるが、研究者がその場所を適切に分類できるのかも疑問であるし、また、そのような分類には時間やコストがかかる。そこで、このような方法を採用することにした。あまり選択肢が多すぎたり、記述が細かすぎたりしても対象者が判断できないと考え、上記のような5区分とした。これで適切だったかどうかについては、分析後に考察する。

また、それとは別に、辻・佐藤(2014)の「長野医療介護支援調査」と「長野子育て支援調査」で用いた、居住地域にかかわる5つの項目「私の住む地域のことはだいたい知っている」「近所のどこにどのような人が住んでいるかよく知っている」「私のことは近所の人によく知られている」「私の住む地域の人々は、たいていは知り合い同士だ」「この地域で起きたことは、すぐに耳に入ってくる」を6段階尺度で尋ねた。これらを主成分分析にかけると、1主成分にまとまったので(分析結果は、紙幅の都合で省略する)、これを「居住地域情報」として後の分析に使用する。

新型コロナウイルスの感染者にかかわる情報の受信と送信については、「お住まいの地域において、次のようなことがどのくらいありますか」(Q13)と尋ね、「私の住む地域の人から、同じ地域の人が新型コロナウイルスに感染したという話を聞くこと」(受信)と「私の住む地域の人に、同じ地域の人が新型コロナウイルスに感染したという話を伝えること」(送信)について、「よくある」、「ときどきある」、「たまにある」、「全くない」の4段階尺度で尋ねた。

その上で、新型コロナウイルスの感染者にかかわる情報の受信と送信を目的変数とする重回帰分析を行った。また、同じ目的変数に対して、「地域の区分」と「居住地域情報」の主効果を投入したモデルと、それらの交互作用項を加えたモデルを検討した。

### 3-2-3 結果と考察

重回帰分析の結果は、表3-5と表3-6のとおりである。

表3-5 新型コロナウイルスの感染者情報の受信にかかわる重回帰分析

	モデル1 標準化偏回帰係数	モデル2 標準化偏回帰係数	単相関
性別（男:1, 女:2）	-.040	-.048	-.024
年齢	-.161 **	-.165 **	-.134 **
学歴	-.063	-.065	-.029
個人収入(log)	.038	.048	.011
雇用形態（基準：正規）			
経営	.109 *	.094 +	.131 **
臨時・パート・アルバイト	.048	.054	.002
派遣・契約・嘱託	.011	.004	-.077
自営・自由	.018	.020	.020
無職・家事	.000	.000	.000
学生・生徒	.000	.000	.000
職業（基準：事務）			
農林漁業	.046	.043	.076
技能・労働・作業系	-.117 *	-.122 *	-.103 *
販売・サービス	.023	.029	.053
管理	-.034	-.033	-.037
専門	.018	.026	.049
居住地域情報	.228 **	.396 *	.236 **
居住地域（基準：農村・漁村，田舎）			
大都市の中心部	.068	.070	.032
大都市の郊外	.037	.016	.000
中小都市の中心部	.021	.001	-.015
中小都市の郊外	.007	-.020	-.018
居住地域情報×大都市の中心部		.169 +	
居住地域情報×大都市の郊外		.071	
居住地域情報×中小都市の中心部		-.020	
居住地域情報×中小都市の郊外		.055	
F	2.749 ***	2.537 ***	
R <sup>2</sup>	.113	.125	
Adj. R <sup>2</sup>	.072	.076	

N = 451, + p < .10, \* p < .05, \*\* p < .01. F 値についてのみ \*\*\* p < .001.

まず、新型コロナウイルスの感染者情報の受信については、主効果のみからなるモデル1では、「居住地域情報」のみが正に有意であった。すなわち、地域社会に根を下ろし、地域社会にかかわるさまざまな情報がふだんから入って来やすい人は、感染者情報についても入手しやすい。

また、交互作用を含めたモデル2では、「居住地域情報」に加え、「居住地域情報」と「大都市中心部」の交互作用が正に有意であった。これは、地域社会にかかわるさまざまな情報がふだんから入って来やすいことに加え、大都市の中心部に住んでいる人は、さらに感染者情報が入手しやすくなることを示している。これは、大都市部では感染者数や感染率が高いので、ふだんから地域社会の情報が入って来やすい人は、新型コロナウイルスの感染者にか



かわる情報が、他の場所に比べてますます入手しやすくなることを示していると言えるだろう。

表3-6 新型コロナウイルスの感染者情報の送信にかかわる重回帰分析

	モデル1 標準化偏回帰係数	モデル2 標準化偏回帰係数	単相関
性別 (男:1, 女:2)	-.111 *	-.121 *	-.073
年齢	-.200 **	-.205 **	-.190 **
学歴	-.090 +	-.093 *	-.044
個人収入(log)	-.028	-.018	-.027
雇用形態 (基準: 正規)			
経営	.218 **	.199 **	.251 **
臨時・パート・アルバイト	.051	.057	-.020
派遣・契約・嘱託	-.004	-.013	-.092 +
自営・自由	-.014	-.013	-.021
無職・家事	.000	.000	.000
学生・生徒	.000	.000	.000
職業 (基準: 事務)			
農林漁業	.009	.002	.056
技能・労働・作業系	-.134 *	-.140 *	-.045
販売・サービス	-.102 +	-.093 +	-.036
管理	-.090 +	-.089 +	-.039
専門	-.032	-.021	.029
居住地域情報	.244 **	.360 *	.250 **
居住地域 (基準: 農村・漁村, 田舎)			
大都市の中心部	.103	.114 +	.041
大都市の郊外	.140 *	.124 +	.097 *
中小都市の中心部	.044	.030	-.025
中小都市の郊外	-.006	-.028	-.086 +
居住地域情報×大都市の中心部		.172 *	
居住地域情報×大都市の郊外		.037	
居住地域情報×中小都市の中心部		-.071	
居住地域情報×中小都市の郊外		.052	
F	5.262 ***	4.828 ***	
R <sup>2</sup>	.197	.214	
Adj. R <sup>2</sup>	.159	.170	

N = 451, + p < .10, \* p < .05, \*\* p < .01. F 値についてのみ \*\*\* p < .001.

新型コロナウイルスの感染者情報の送信についても、主効果のみからなるモデル1では、受信の場合と同様、「居住地域情報」が正に有意であった。すなわち、地域社会に根を下ろし、地域社会にかかわるさまざまな情報がふだんから入って来やすい人は、感染者情報についても他者に発信しやすい。また、「大都市部の郊外」の人々も、感染者情報を他者に発信しやすい。これは、大都市の中心部に通勤する郊外の人々は、中心部で感染者にかかわる情報を入手しやすく、そうして入手した情報を、郊外の生活の場において、コンサマトリーなコミュニケーションの際に伝えるからと考えられる。

また、交互作用項を含めたモデル2では、「居住地域情報」に加え、「居住地域情報」と「大都市中心部」、「居住地域情報」と「大都市の郊外」の交互作用が、10%水準ではあるが

正に有意な傾向を示した。これは、大都市中心部や大都市郊外において、地域社会の情報を入手しやすい人は、知り得た感染者情報を他者に伝える傾向があることを示している。それらの地域に住む情報通の人々は、こちらの人々（たとえば地域社会の人々）とあちらの人々（たとえば趣味のグループの人々）との間に関係がほとんどなく、こちら側の人に非難や差別といった実害を与えることはないと判断したならば、こちらで受け取った情報をあちらで流すというようなことをやりがちなのだと考えられる。大都市部においては、現代版の「王様の耳はロバの耳」現象が起こっていると考えられる。

### 3-3 コンタクト・トレーシングアプリ利用の促進と回避

#### 3-3-1 目的

新型コロナウイルスの流行が始まると、感染者と接触があったかどうかをスマートフォンのGPS情報によって確認するアプリケーション（コンタクト・トレーシングアプリ）が各国で開発された。日本においても、国レベルのみならず都道府県レベルにおいても、新型コロナウイルスの接触者追跡アプリが開発された。2020年10月7日付けの朝日新聞の記事「コロナ接触者追跡、21都道府県が独自に導入 朝日調査」<sup>2</sup>によると、その時点で21の都道府県が独自のアプリを導入している。国レベルでは、厚生労働省が開発したCOCOAというシステムが開発された。配布開始日は6月19日、感染者との接触があった場合の通知の開始が7月3日であった。これは、多くの人々がスマートフォンを使う時代だからこそ可能になった方法である。しかしながら、多くの人々がこれを自分のスマートフォンにインストールして、そのスマートフォンを恒常的に持ち歩いていなければ、感染者との接触があっても検知されないし、その精度も低くなる。実際のところ、厚生労働省がウェブサイトで公表する数値によれば、本調査が行われる最新時点である11月6日時点でのダウンロード数は1938万件（ただし、再度ダウンロードした場合、複数回カウントされる場合がある）、陽性登録件数2168件となっている。仮に1938万件に重複がないとしても、2019年10月1日現在の確定した人口は126167千人、11月6日時点での感染者数は104533人だったから、ダウンロード率は、15.4%、感染者登録率（陽性登録件数 / 感染者数）は、2.1%にすぎない。これでは、感染者との接触があっても、検知されないことの方がずっと多いただろうし、精度も低い。では、人々はなぜダウンロードしようとししないのだろうか？ 一方、なぜ、一部の人はダウンロードしたのだろうか？ そこで、本節では、彼らのアプリに対する期待や不安に違いがあるかどうかについて検討する。

まず、単純に、感染者と接触した可能性についてアプリが知らせてくれるならば、その後の行動を早期に自粛したりすることができるのでよいという考え方があるだろう。

その一方で、自らが感染したとしても、無症状であるならば、感染していないと思って日常生活を続けたいと思う人々もいるだろう。そのような人々にとっては、アプリから感染者と接触した可能性があることを知らされたくないかもしれない。不安を喚起されたくない

---

<sup>2</sup> <https://digital.asahi.com/articles/ASNB66GR3N9ZUJHB00V.html>（2021年3月13日閲覧）

というわけである。

また、コンタクト・トレーシングアプリの目的は理解できるとしても、それは、感染者から本人が感染したという情報を提供してもらい、不特定多数の人がその情報を利用することである。誰が感染者かについては匿名にされるとしても、それは、感染者本人のプライバシーにかかわることである。自分のプライベートな情報を厚生労働省や国家（政府）に提供することは、それらに対する信頼ともかかわっている。このようなアプリの仕組みは、国家が個人情報を監視するという意味合いがある。国家が適切に個人情報を保護してくれるのかといった懸念が払拭できないと、人々は不安を覚え、アプリの普及は進みにくいだろう。

他方、厚生労働省や国家に対する信頼が篤い人々は、むしろ監視されることを、国家が守ってくれると考えて適切であると考え、アプリを使おうとするかもしれない。国が全体としてこのようなアプリを普及させれば、感染予防につながり安心だと考えるのである。

そこで、次の2つの仮説を立てた。

**仮説3-5** コンタクト・トレーシングアプリを利用している人は、国がこのようなアプリを配布することは適切と考え、新型コロナウイルス対策が感染予防につながり、また、感染者と接触したことを知らせてくれるならば、早期に行動変容できるなど安心につながると考えている。

**仮説3-6** コンタクト・トレーシングアプリを利用しない人や、利用をやめた人は、国から感染情報という個人情報を監視されていると考え、不安を覚えている。また、感染者と接触があったことは不安につながると考えている。

### 3-3-2 方法

まず、新型コロナウイルスのコンタクト・トレーシングアプリにかかわる意見（Q12S1～Q12S8）を因子分析し、意見のもとになっている因子を探る。

次に、コンタクト・トレーシングアプリの使用状況を説明変数とし、使用状況によってアプリにかかわる意見（因子）に違いが生じるかどうかを確認する。

### 3-3-3 結果と考察

新型コロナウイルスのコンタクト・トレーシングアプリにかかわる意見の因子分析の結果は、表3-7のとおりである。

表3-7 コンタクト・トレーシングアプリに対する意見の因子分析（最尤法・プロマックス回転）

	アプリへの 安心感	アプリへの 不安感
このアプリは人々の行動という個人情報を利用するものだが、このやり方は新型コロナウイルスの感染症対策として適切だ	<b>.804</b>	-.093
このアプリを利用することで感染予防になる	<b>.787</b>	-.013
このアプリは感染者と接触したかわかるので、安心だ	<b>.776</b>	-.023
このアプリの監視により新型コロナウイルスに感染しない	<b>.626</b>	.083
このアプリは監視されているようで安心する	<b>.539</b>	.053
このアプリは人々の行動という個人情報を把握されることになるので不安だ	-.017	<b>.825</b>
このアプリは監視されているようで不安になる	-.097	<b>.792</b>
このアプリは感染者と接触したかわかるので、感染したのではないかと不安になる	.304	<b>.477</b>
因子間相関		.127
	.127	
因子寄与率 (%)	40.140	23.478
信頼性係数 $\alpha$	.832	.736

2つの因子に分かれた。第1因子は、簡潔のため「アプリへの安心感」と名付けたが、実際には、個人情報を利用することになるが適切な方法であるとか、感染予防になるとか、監視されることで安心といった意見が混じっている。監視によって感染しないというような、あまり科学的でない信念さえ混じっている。

第2因子は、「アプリへの不安感」と名付けたが、実際には、国家による個人情報を把握されることに対する不安である。

そして、これらの2つの因子を目的変数とし、コンタクト・トレーシングアプリの使用状況を説明変数とする重回帰分析を行った。その結果は、表3-8のとおりである。

表3-8 アプリへの安心感と不安感にかかわる重回帰分析

	安心感		不安感	
	標準化偏回帰係数	単相関	標準化偏回帰係数	単相関
アプリ使用（基準：不使用）				
使用	.120 *	.134 **	-.226 **	-.216 **
やめた	-.031	-.039	-.035	.001
-----				
性別（男:1, 女:2）	-.008	-.002	.061	.085 +
年齢	-.094 +	-.070	-.155 **	-.120 *
学歴	-.096 +	-.067	.011	.007
雇用形態（基準：正規）				
経営	.055	.083 +	.085 +	.050
臨時・パート・アルバイト	.036	.003	.066	.041
派遣・契約・嘱託	-.008	-.047	.009	-.047
自営・自由	-.025	-.015	.045	.048
無職・家事	.000	.000	.000	.000
学生・生徒	.000	.000	.000	.000
職業（基準：事務）				
農林漁業	.141 **	.127 **	.058	.047
技能・労働・作業系	-.025	-.046	.017	.024
販売・サービス	.019	-.005	-.067	-.071
管理	.028	.019	-.062	-.091 +
専門	.067	.039	.074	.129 **
個人収入(log)	.039	.015	.050	-.014
結婚	.012	.019	.062	.018
-----				
F	1.501 +		2.814 ***	
R <sup>2</sup>	.059		.105	
Adj. R <sup>2</sup>	.020		.068	

N = 451, + p < .10, \* p < .05, \*\* p < .01. F 値についてのみ \*\*\* p < .001.

「安心感」の分析から、アプリを使用している人ほど、安心感を持っていることがわかった。また、「不安感」の分析から、アプリを使用している人ほど、不安を感じていない（アプリを使用していない人ほど、不安を感じている）ことがわかった。アプリを使用していたがやめた人は、アプリを使用していない人とほぼ同じ傾向を持っていることもわかった。

ただし、安心感にかかわる分析は、モデル全体にかかわる F 値があまり高くない点に注意が必要であるが、アプリの使用にかんする係数は予想どおりの傾向を示していることから、おおむね容認できる結果だと考えられる。

ひるがえって、安心感とは何かを見てみると、それは、国の政策は適切で予防効果があるし、感染者と接触したことが分かるので安心だという意見であり、アプリの利用者は、そのような意味での安心感を得ながら使用していると考えられる。

他方、不安感とは、国に個人情報把握され監視されているようだから不安だという意見であり、アプリを使わない人や使用をやめた人は、そのような意味で使わないのだと考えられる。

さて、アプリを使わない人に使ってもらえるようにできるかということについて考えてみ

ると、それはひとえに国家（政府）への信頼にかかっているとと言えるだろう。この調査の後に、アプリが Android 携帯で数ヶ月間にわたって機能していなかったことが明らかになった。これは、テクニカルな問題もあるが、それ以上に、政治的無作為ということに尽きるだろう。こういった事件は、さらに国家（政府）に対する不信感を高めてしまった。信頼から不信を招くことはたやすいが、不信感を回復することは難しい。実質的に有効な対策はないのかもしれない。

#### 引用文献

池田謙一，2000，『コミュニケーション』東京大学出版会。

三浦麻子・平石界・中西大輔・Ortolani, Andrea, 2020, 「新型コロナウイルス感染禍に対する態度の国際比較：『自業自得』『自粛警察』は日本にユニークなのか」日本社会心理学会第 61 回大会。

辻竜平・村山研一，2012, 「大鹿村の集落のネットワーク構造」, 『人文科学論集〈人間情報学科編〉』46: 69-80.

辻竜平・佐藤嘉倫，2014, 『ソーシャル・キャピタルと格差社会：幸福の計量社会学』東京大学出版会。

## 第4章 新型コロナウイルスに対する恐怖

### 4-1 新型コロナウイルスへの恐怖

#### 4-1-1 目的と仮説

新型コロナウイルスの世界的大流行（パンデミック）は、世界各国・各地域を恐怖に陥れた。ウイルスは、それなりに予防をしているつもりであっても、いつどこで感染するか分からない、肉眼では「見えない恐怖」である。また、特効薬や確立した治療法、ワクチンなどが存在しない状況では、感染して発症すると、もしかすると死に至る可能性もあるのである<sup>1</sup>。各国・各地域において緊急事態宣言や非常事態宣言が発出されて、程度の差はあれ、街は封鎖あるいはそれに近い状態が出現した。

ところで、新型コロナウイルスに対する恐怖<sup>2</sup>といっても、その内容はいくつかに分類できそうである。まずは、自分自身や家族などの身近な人々が感染してしまうのではないかという恐怖がある。これは、上述のように、特効薬や確立した治療法、ワクチンなどが存在しないため、場合によっては死に至る可能性があることから生じる恐怖である。また、感染者に対する非難の声があったり、感染したことによる差別が生じていることも報道された。そのため、自分が感染すると、そういった非難や差別の対象になってしまうのではないかという恐怖もある。さらには、飲食業や接客業などは、特に強く営業の自粛が求められたところから、それが長期化すれば経済的にやっていけるのだろうかという不安もある。同様に、事業を縮小するような企業に勤めている人も、経済的な不安を持つことになるだろう。また、国全体として、あるいは世界全体として、経済活動が沈滞して不況に陥り、感染が終結してからも、何年も経済が回復しないのではないか（それは、個々人に対しても長期的な負担となる可能性がある）という不安もある。他にもさまざまな恐怖や不安があるかもしれない。

では、誰がどのような恐怖を抱くのだろうか？ まず、感染者数が多い地域、もしくは感染率が高い地域ほど、さまざまな恐怖を感じやすいかもしれない。また、テレワークの対象となるような職業ではないため、実際に同僚や顧客等と接触する「現場」で働かざるをえない人や、そのために通勤（や通学）を余儀なくされる人は、さまざまな恐怖を感じやすいかもしれない。これらは、いずれも、感染者との接触可能性が高いこと、あるいは高くなることから生じる恐怖であると言えるだろう。

また、多くの人々は、新型コロナウイルスにかかわる情報を、マスメディアやネットメディアなど、さまざまな媒体を通じて得ている。新型コロナウイルスは、調査時点である2020年11月中旬まで、2回の流行期を経てきていたが、感染者が増えたという報道を見聞きす

---

<sup>1</sup> 文脈は異なるが、福島市が2012年に行った「放射能に関する市民意識調査報告書」によると、「外部被ばくによる健康不安【自身に対して】」、「外部被ばくによる健康不安【家族に対して】」、「内部被ばくによる健康不安【自身に対して】」、「内部被ばくによる健康不安【家族に対して】」、「大いに不安である」もしくは「やや不安である」と答えた人のパーセンテージは、順に81.1%、89.4%、83.3%、90.9%（2941人中）となっており、放射能という見えないものに対して多くの人々が健康不安を抱いていた。

<sup>2</sup> 本章では、「恐怖」と「不安」を相互可換な概念として用いる。

れば恐怖を感じ、感染者が減少したという報道を見聞きすれば安心するといった状態であった。川端（2014）は、マスメディアへの接触時間の長い人は、社会不安が高いこと、マスメディアから得た情報をインターネットで確認する人は、社会不安が低くなることを発見した。これについて川端は、マスメディアからの情報は、不安が高まるような事件や危機的情報が強調されることが多く、人々は、安心できる情報を求めてインターネットに接触し、安心できる情報が見つければ、不安を低めることができるからだと論じている。ここから、マスメディアに接触する頻度が高いほど、恐怖心が強くなるものと考えられる。ここで、川端は、マスメディアの情報を比較的信頼性の高い情報源であると述べており、それを前提にしているから、上のような議論が成り立つわけである。しかし、誰もがマスメディアからの情報を信用しているわけではないだろう。ここから、マスメディアの情報を信用する人は、報道された事実をより強く信じるから、より強く恐怖を感じるなのであって、それほど信用していない人は、それほど恐怖を感じないと考えられる。

では、マスメディア以外の情報はどうか？ 新型コロナウイルスの文脈では、川端が論じるように、従来どおり、マスメディアからの情報に接し、そこからインターネットの探索を始めるような人も多いと思われるが、マスメディアと他のメディアを併用して情報を確認するような人も少数ながらもいたと思われる。また、他のメディアに当たっても、必ずしも不安を緩和する情報に行き着くかどうかもわからない。むしろ、他のメディアは、より正確に情報を理解したりするために利用されているのではないだろうか？ そうすると、他のメディアに接触することによって、恐怖心は増大することも減少することもありうるだろう（一方向的な予測は立てられない）。

以上より、本章では、次の仮説を検討する。

**仮説 4-1** 感染者数の多い地域ほど、人々は新型コロナウイルスに対する恐怖を感じる。

**仮説 4-2** 同僚や顧客と接触せざるをえないような職業の人々は、新型コロナウイルスに対する恐怖を感じる。

**仮説 4-3** 新型コロナウイルスの流行によって営業の自粛や事業の縮小をせざるをえない職業の人々は、経済的な不安を感じる。

**仮説 4-4** マスメディアへの接触が多い人ほど、また、マスメディアの情報を信用する人ほど、新型コロナウイルスに対する恐怖を感じる。

#### 4-1-2 方法

第3章でも扱ったように、感染者数と感染率のどちらが作用するかを検討することは、ここでも重要である。したがって、仮説4-1の検討に当たっては、これらを別々に投入したモデルを検討する。

通常の社会調査では、職業にかかわる定型的な質問があり、本調査でもそれを使っている



(Q22). しかし、同僚や顧客と接触する可能性にかかわる仮説4-2や、営業の自粛にかかわる仮説4-3を検討するためには、別途、それに対応する職業について尋ねる必要がある。そこで、網羅的ではないかもしれないが、Q23において、9つの職業を挙げて、それに当てはまるかどうかを尋ねた（どれにも当てはまらない場合は、「当てはまるものはない」を選択）。ただし、仮説4-3には事業の縮小についても言及されているが、どのような職種・業種がそれに当たるのかは、予想が難しく、これについては検討を断念した。よって、実質的には、仮説4-3は、営業の自粛のみに絞ることになる。

メディアへの接触頻度と信用については、Q2とQ3で同じ項目を使って尋ねている。接触頻度と信用は、無関係ではないが、接触が多いことが信用を表すとは限らないことから、接触頻度と信用は、別々に分析することにする。接触頻度は、主成分分析（回転なし）を行い、信用は因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行う。ここから、次項で示すように、それぞれ3つの主成分/因子が発見された。これらの主成分/因子には、マスメディアにかかわるものとそうではないものがあるが、全てを投入してそれぞれの効果を検討する。

新型コロナウイルスに対する恐怖は、Q9S1からQ9S20までの20項目を因子分析（最尤法・プロマックス回転）する。ここから、次項で示すように4つの因子が発見された。

その上で、上の4つの仮説を一度に分析する。恐怖にかんする4つの因子をそれぞれ目的変数とし、メディアへの接触と信用、定型的な職業項目と新型コロナウイルスの流行によって影響を受けた9つの職業、都道府県別の感染者数を自然対数変換したもの<sup>3</sup>を説明変数とした重回帰分析を行う。

#### 4-1-3 結果

まず、メディアへの接触頻度と信用についての主成分分析と因子分析の結果は、下記のとおりである。

---

<sup>3</sup> 第3章では、感染者数を自然対数変換したものと、感染率をそれぞれ用いた結果を示した。ここでも両方を用いて計算してみたが、結果はほとんど違わなかった。第3章では、感染者数を自然対数変換したものの方が適当という結論に達したので、ここでも、感染者数を自然対数変換したものを説明変数とした結果のみを示す。

表4-1 メディアへの接触頻度の主成分分析

	その他の メディア (接触)	新聞・ テレビ (接触)	インター ネット
医師や病院のウェブサイト、医師や病院がソーシャル・メディアで発する情報	<b>.818</b>	-.172	-.083
海外の各国政府や国連、各国の公衆衛生部門や世界保健機関、各国の外交部門・大使館等のウェブサイト、それらがソーシャル・メディアで発する情報	<b>.817</b>	-.262	-.102
医学誌などの専門誌、医学会・医学誌のウェブサイト、医学会・医学誌がソーシャル・メディアで発する情報	<b>.817</b>	-.187	-.015
海外のマスメディアのウェブサイト、海外のマスメディアがソーシャル・メディアで発する情報	<b>.799</b>	-.204	-.131
政府や厚生労働省のウェブサイト、政府や厚生労働省がソーシャル・メディアで発する情報	<b>.772</b>	-.186	-.154
上記以外の国内のマスメディア（通信社など）、そのマスメディアのウェブサイト、そのマスメディアがソーシャル・メディアで発する情報	<b>.691</b>	.259	.141
週刊誌の記事、週刊誌のウェブサイト、週刊誌がソーシャル・メディアで発する情報	<b>.677</b>	.271	.041
都道府県や市区町村のウェブサイト、都道府県や市区町村がソーシャル・メディアで発する情報	<b>.669</b>	-.074	-.134
テレビ放送、テレビのウェブサイト、テレビがソーシャル・メディアで発する情報	.131	<b>.739</b>	-.237
新聞の紙面、新聞のウェブサイト、新聞がソーシャル・メディアで発する情報	.400	<b>.518</b>	-.465
ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で不特定の人々が発信した情報	.510	.082	<b>.638</b>
ネットメディア（新聞やテレビなどのマスメディアではない）のウェブサイト、ネットメディアがソーシャル・メディアで発する情報	.428	.364	<b>.569</b>
主成分寄与率（%）	43.692	10.900	9.166
信頼性係数 $\alpha$	.891	.389	.534

表4-2 メディアへの信用の因子分析（最尤法・プロマックス回転）

	専門的・ 公的メデ ィア	その他の メディア (信用)	新聞・ テレ ビ
医師や病院のウェブサイト、医師や病院がソーシャル・ メディアで発する情報	<b>.914</b>	-.084	-.004
医学誌などの専門誌、医学会・医学誌のウェブサイト、 医学会・医学誌がソーシャル・メディアで発する情報	<b>.913</b>	-.084	-.001
都道府県や市区町村のウェブサイト、都道府県や市区町 村がソーシャル・メディアで発する情報	<b>.745</b>	.016	.076
政府や厚生労働省のウェブサイト、政府や厚生労働省が ソーシャル・メディアで発する情報	<b>.721</b>	.010	.111
ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で不 特定の人々が発信した情報	-.133	<b>.737</b>	-.177
ネットメディア（新聞やテレビなどのマスメディアでは ない）のウェブサイト、ネットメディアがソーシャル・ メディアで発する情報	-.015	<b>.640</b>	.034
週刊誌の記事、週刊誌のウェブサイト、週刊誌がソーシ ャル・メディアで発する情報	-.194	<b>.632</b>	.354
上記以外の国内のマスメディア（通信社など）、そのマ スメディアのウェブサイト、そのマスメディアがソーシ ャル・メディアで発する情報	.033	<b>.612</b>	.251
海外のマスメディアのウェブサイト、海外のマスメディ アがソーシャル・メディアで発する情報	.318	<b>.592</b>	-.084
海外の各国政府や国連、各国の公衆衛生部門や世界保健 機関、各国の外交部門・大使館等のウェブサイト、それ らがソーシャル・メディアで発する情報	.423	<b>.542</b>	-.136
テレビ放送、テレビのウェブサイト、テレビがソーシャ ル・メディアで発する情報	-.018	-.016	<b>.958</b>
新聞の紙面、新聞のウェブサイト、新聞がソーシャル・ メディアで発する情報	.233	-.103	<b>.752</b>
因子間相関		.527	.562
			.568
因子寄与率（%）	48.981	14.110	9.010
信頼性係数 $\alpha$	.902	.836	.872

以上の主成分分析と因子分析から得られた 6 つの主成分ないし因子が、重回帰分析の説明変数となる。

続いて、恐怖にかかわる 20 項目の因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行った。そのうち 2 項目については、因子負荷量が小さかったので割愛し、18 項目による因子分析を行った。その結果は、第 2 章の表 2-4 と同じであるが、表 4-3 として再掲しておく。

表4-3 新型コロナウイルスにかかわる恐怖や不安の因子分析(最尤法・プロマックス回転)

	感染不安	忌避不安	個人経済的不安	社会経済的不安
新型コロナウイルスに感染すれば、重症化したり後遺症が残ってしまうのではないかと思う	<b>.923</b>	-.084	.003	-.068
新型コロナウイルスに感染することが怖い	<b>.883</b>	.004	-.107	.034
新型コロナウイルスの流行が、いつ収束するかわからないのが怖い	<b>.652</b>	.042	.050	.116
新型コロナウイルスに自分が感染したら、他人にうつしてしまうのではないかと思う	<b>.584</b>	-.081	-.048	.275
新型コロナウイルスの拡大写真を見ると怖い	<b>.573</b>	.173	-.007	-.166
新型コロナウイルスの流行後の自分の将来が見通せない	<b>.425</b>	.137	.237	-.022
新型コロナウイルスに感染しても、感染したことを他人には誰にも知られたくない	-.095	<b>.976</b>	-.122	.072
新型コロナウイルスに感染しても、感染したことを友人・知人には知られたくない	-.081	<b>.953</b>	-.092	.035
新型コロナウイルスに感染すると、友人・知人から避けられるのではないかと思う	.147	<b>.623</b>	.035	-.018
新型コロナウイルスに感染すると、友人・知人からひどい扱いを受けるのではないかと思う	.041	<b>.567</b>	.236	-.206
新型コロナウイルスに感染すると、見ず知らずの人からひどい扱いを受けるのではないかと思う	.053	<b>.547</b>	.134	-.031
新型コロナウイルスに感染すると、見ず知らずの人から避けられるのではないかと思う	.141	<b>.518</b>	.024	.143
新型コロナウイルスは、自分や家族に長期的な経済的損失を与える	-.044	-.064	<b>1.008</b>	-.008
新型コロナウイルスは、自分や家族に一時的に大きな経済的損失を与える	-.030	.044	<b>.738</b>	.129
新型コロナウイルスは、自分の友人や知人の多くに経済的損失を与える	.016	.106	<b>.545</b>	.028
新型コロナウイルスは、世界経済に大きな損失を与える	-.002	-.005	-.045	<b>.893</b>
新型コロナウイルスは、日本経済に大きな損失を与える	.017	-.099	.078	<b>.823</b>
新型コロナウイルスによる経済損失が大きく、日本経済は長期的に回復しない	-.038	.154	.089	<b>.643</b>
因子間相関	1.000	.519	.573	.543
		1.000	.579	.290
			1.000	.496
因子寄与率(%)	41.627	12.743	7.957	5.977
信頼性係数 $\alpha$	.856	.887	.823	.845

以上の予備的な分析をもとに、重回帰分析を行う<sup>4</sup>。その結果は下記のとおりである。

<sup>4</sup> ここでも、第3章の注釈1で述べたように、感染者数は都道府県レベルで決まっているため、本来であれば、マルチレベル分析を行う方がよいが、本学部カリキュラムにおける統計学で扱う範疇を越えるので、次善策として重回帰分析を行うこととする。

表4-4 4つの恐怖にかかわる重回帰分析(その1)

	感染不安			忌避不安				
	標準化偏回帰 係数	単相関		標準化偏回帰 係数	単相関			
感染者数(log)	-.033	-.095	+	-.111	*	-.136	**	
接触_新聞・テレビ	.138	*	.184	**	.035	.047		
接触_インターネット	.002		.026		-.005	.052		
接触_その他のメディア	.041		.085	+	.028	.053		
信用_新聞・テレビ	.216	**	.268	**	.137	+	.130	**
信用_専門的・公的メディア	.020		.165	**	-.028		.068	
信用_その他のメディア	-.067		.135	**	-.013		.108	*
性別(男:1, 女:2)	.209	**	.265	**	.073		.151	**
年齢	.045		.051		-.076		-.103	*
学歴	-.120	*	-.128	**	-.029		-.047	
雇用形態(基準:正規)								
経営	.051		.020		.045		.029	
臨時・パート・アルバイト	.057		.176	**	.095		.145	**
派遣・契約・嘱託	-.057		-.051		-.058		-.105	*
自営・自由	-.049		-.015		-.020		-.054	
無職・家事	.000		.000		.000		.000	
学生・生徒	.000		.000		.000		.000	
職業(基準:事務)								
農林漁業	-.021		-.026		-.022		-.014	
技能・労働・作業系	-.117	+	-.091	+	-.108		-.077	
販売・サービス	.039		.052		.079		.069	
管理	-.057		-.098	*	-.057		-.103	*
専門	.043		.082		.042		.075	
特定職業(基準:その他)								
医療・看護従事者	-.089	+	.014		-.010		.056	
福祉・介護従事者	.033		.104	*	.081		.134	**
接待を伴う飲食店	-.023		.019		.026		.072	
接待を伴わない飲食店	.001		.041		-.065		-.034	
対面的接触が多い店員や販売員	.012		.033		-.020		.036	
利用・美容・エステなど身体接触 のある職業の従事者	-.027		-.035		.007		.006	
公共交通機関(タクシーを含む) や宅配業務の従事者	.000		-.061		.020		-.025	
外回りの営業員	-.073		-.083	+	-.131	*	-.140	**
流れ作業を伴う工場での従業員	.070		-.005		.085		.037	
通勤・通学時間	.036		-.059		.095		.017	
個人収入(log)	-.021		-.119	*	.023		-.068	
結婚(現在結婚:1)	.054		.090	+	.026		.029	
F	2.971	***			1.742	**		
R <sup>2</sup>	.208				.134			
Adj. R <sup>2</sup>	.138				.057			

N = 407, + p < .10, \* p < .05, \*\* p < .01. F 値についてのみ \*\*\* p < .001.

表4-4 4つの恐怖にかかわる重回帰分析（その2）

	個人経済不安		社会経済不安	
	標準化偏回帰 係数	単相関	標準化偏回帰 係数	単相関
感染者数(log)	-.024	-.080	.028	-.021
接触_新聞・テレビ	.224 **	.167 **	.166 **	.111 *
接触_インターネット	.107 +	.095 +	.084	.029
接触_その他のメディア	-.091	.019	-.141 *	-.072
信用_新聞・テレビ	-.006	.120 *	.075	.165 **
信用_専門的・公的メディア	.084	.120 *	.251 **	.216 **
信用_その他のメディア	-.056	.056	-.232 **	-.032
性別（男:1, 女:2）	.178 **	.172 **	.079	.154 **
年齢	.011	-.023	-.017	.017
学歴	-.034	-.047	-.042	-.031
雇用形態（基準：正規）				
経営	-.031	-.039	-.058	-.113 *
臨時・パート・アルバイト	.042	.112 *	.129 *	.133 **
派遣・契約・嘱託	-.072	-.059	.004	-.007
自営・自由	.004	.009	.015	.021
無職・家事	.000	.000	.000	.000
学生・生徒	.000	.000	.000	.000
職業（基準：事務）				
農林漁業	.039	-.010	-.021	-.052
技能・労働・作業系	.077	.016	-.015	.021
販売・サービス	.154 *	.116 *	-.024	.010
管理	-.011	-.088 +	-.034	-.076
専門	.094	.040	.035	.047
特定職業（基準：その他）				
医療・看護従事者	.001	.039	-.027	-.009
福祉・介護従事者	.004	.041	.022	.031
接待を伴う飲食店	.054	.057	.088 +	.044
接待を伴わない飲食店	.009	.034	.029	.037
対面的接触が多い店員や販売員	.059	.071	.056	.050
利用・美容・エステなど身体接触 のある職業の従事者	-.011	-.014	-.012	-.018
公共交通機関（タクシーを含む） や宅配業務の従事者	.018	-.018	.007	-.027
外回りの営業員	.030	-.010	-.003	-.044
流れ作業を伴う工場での従業員	.122 *	.088 +	.083	.045
通勤・通学時間	.061	-.028	-.026	-.047
個人収入(log)	-.015	-.086 +	.026	-.050
結婚（現在結婚:1）	.043	.045	.010	.034
F	1.824 **		2.140 ***	
R <sup>2</sup>	.139		.159	
Adj. R <sup>2</sup>	.063		.085	

N = 407, + p < .10, \* p < .05, \*\* p < .01. F 値についてのみ \*\*\* p < .001.

まず、目的変数ごとに、主要な変数で有意だったものをまとめると、次の表4-5のようになる。

表4-5 重回帰分析のまとめ

	効果のある主な変数	効果のある統制変数
感染不安	接触_新聞・テレビ(+), 信用_新聞・テレビ(++), 医療・看護従事者(-)	女性(++), 学歴(-)
忌避不安	感染者数(-), 外回りの営業員(-)	
個人経済不安	接触_新聞・テレビ(++), 流れ作業を伴う従業員(+)	女性(++), 販売・サービス(+),
社会経済不安	接触_新聞・テレビ(++), 接触その他(-), 信用_専門的・公的(++), 信用_その他のメディア(-)	臨時・パート・アルバイト(+)

+は正の効果, -は負の効果. +または-の記号の個数: 1つは5%水準, 2つは1%水準で有意であることを表す。

#### 4-1-4 考察

以上の結果から、仮説の検討を行う。

仮説4-1であるが、地域の感染者数何らかの不安を高める効果は認められなかったので、この仮説は棄却された。

ところで、当該地域の感染者数の多さは、忌避不安を低める効果があった。これは、仮説とは逆の効果があったことを意味する。これは、感染者が多い大都市圏の人々のことを考えるよりも、むしろ、感染者数の少ない地方の人々のことを考える方が理解しやすい。ゴールデンウィークやお盆などに、都市部に住む子や孫に対して「今は、帰ってくるな」と言った祖父母が多かったということからも察せられるように、感染者数の少ない地域の方が、感染することに敏感になっていて、感染が問題になっている状況下で、出歩いたり感染対策をきちんとしなかったのではないかと非難されたり、避けられたりするかもしれないという不安は大きいということである。

仮説4-2であるが、医療・看護従事者は、感染不安が低めであり、外回りの営業員は、忌避不安が低めである。流れ作業を伴う従業員は、個人経済不安が高かった。ここから、仮説4-2については、一部支持された。

ではなぜ、医療・看護従事者と外回りの営業員は、むしろ恐怖や不安が低めなのだろうか？ まず、医療・看護従事者は、確かに圧倒的に多くの新型コロナウイルス患者と接する可能性が高いが、その一方で、一般の人々より感染症にかかわる知識を持っていて、闇雲に怖がるということはないのだろうし、また、どうやって感染を防ぐかについても、知識を持っているとともに、より適切に実践しているからだろう。では、外回りの営業員に忌避不安が少ないのはなぜだろうか？ 外回りの営業をしていると、いろいろな人々と接触することになり、そこでマスクや手の消毒などをしていけば、営業先でことさらに避けられることはない。そのような経験から、友人・知人であってもそうだろうという楽観的な気持ちにな

れるのかもしれない。ただ、これは、他者と接触するような仕事をしていれば、一律に同じ説明ができてしまうので、あまり適切ではないのかもしれない。外回りの営業員に特有の理由については、残念ながらよくわからない。

流れ作業を伴う従業員が「個人経済不安」、すなわち、自分や家族、周囲の人々が経済的な損失を受けるのではないかと考えている。おそらくこの場合は、周囲の人々よりも、自分や家族について、経済的不安を抱えているのだろうと思われる。彼らがどのような業種の工場で働いているのかはわからないが、少なくとも一部の工場労働者たちは、事業縮小のため、解雇されたり雇い止めにあたりして、収入が減少することを心配しているのだろうと考えられる。

仮説4-3であるが、まず、事業の縮小については、既述のとおり、本調査では扱わないことにした。営業の自粛については、日本の場合は、「接待を伴う飲食店」と「接待を伴わない飲食店」がこれに当たるが、これらは、いずれも特段に恐怖を感じていなかったから、仮説4-3も棄却された。

仮説4-4であるが、接触については、新聞・テレビへの接触が多いほど、感染不安と個人経済不安、社会経済不安が高かった。これらのマスメディアを見れば見るほど、自分が感染してしまうのではないかとか、自分が仕事を失ってしまうのではないかとか、日本や世界の経済がダメになってしまうのではないかと、心配してしまうのだと考えられる。マスメディアが忌避不安につながることはなかったが、接触については、仮説はおおむね支持されたと言えるだろう。

しかしながら、「接触\_その他のメディア」、すなわち、「新聞・テレビ」とSNSやネットメディア等の「インターネット」以外の情報源への接触の場合は、社会経済不安を抑制する方向で作用している。それには、医学的な情報、各国政府や公衆衛生部門（日本では厚生労働省）が出す情報、自治体が出す情報などの項目が含まれている。これらの比較的科学的で客観的な情報に多く接触する人は、日本や世界の経済についてあまり心配しない。それらの間には、直接的な因果関係があるのではなく、おそらく、自ら科学的・客観的な情報を求めるような人々は、日本や世界の経済についても、自分で適切な情報を収集し、適切な判断を下すことができるので、一般の人々が持つような漠然とした不安などを持ちにくいのだろうと考えられる。

次に信用についてであるが、「新聞・テレビ」を信用している人ほど、感染不安を抱えていることと、「信用\_その他のメディア」を信用している人ほど、社会経済的不安を抱かないことがわかった。「新聞・テレビ」を信用している人ほど、感染不安を抱えていることから、仮説4-4は部分的に支持されたということになるだろう。一方、「信用\_その他のメディア」に含まれているのは、SNSやネットメディア、週刊誌、海外のマスメディア、各国政府や公衆衛生部門の情報などであり、「その他のメディア」といっても「接触」の場合と含まれている内容はやや異なっている。「信用\_その他のメディア」は、必ずしも客観的な内容とは言えないSNSなども含まれているが、新聞・テレビの情報を一方向的に受容するのではなく、さまざまな情報を探索しようとする意図によってアクセスされるものということができるのではないだろうか。そうだとすると、その他のメディアを信用する人は、同時に内容



そのものを吟味・精査して信用できる情報を探索しているものと考えられる。そのような人であれば、やはり一般の人々が持つような漠然とした経済に対する不安を持ちにくいのだろうと考えられる。

全体として、仮説4-4にあるように、新聞・テレビを中心としたマスメディアによく接し、それらを信用する人々は、感染不安や社会経済不安などを抱きやすいと言えそうである。他方、マスメディアを鵜呑みにせず、自らさまざまな情報、特にもとになる情報源などにアクセスしようとする人々は、それをもとにして自分で考えることから、社会経済不安を抱きにくいと考えられる。

#### 引用文献

福島市, 2012, 『放射能に関する市民意識調査報告書』.

川端美樹, 2014, 「メディア接触行動と社会不安: メディア環境の変容による新たな情報探求行動とその影響」『目白大学総合科学研究』10: 63 - 71.

# 付録

調査票のご確認にあたって  
(各質問上の水色の箇所、その質問に関する設定が表示されます)

<b>画面分割</b>
画面が分割される箇所に「ここで改ページ」という線が表示されます。
<b>セレクト条件 (回答者指定機能)</b>
設定の内容は、以下の4種類で表記されます。
<b>表記例</b> <b>【Q1】で1-3と答えた方</b> →Q1で選択肢「1,2,3」のいずれかを選んだ回答者にのみ、「質問」が表示されます。  <b>Q1項目【1】で1と答えた方</b> →Q1の項目の1番目で選択肢「1」を選んだ回答者にのみ、「質問」が表示されます。  <b>項目【1】：【Q1】で1と答えた方</b> →Q1で選択肢「1」を選んだ回答者にのみ、「項目の1番目」が表示されます。  <b>1_FA：【Q1】で1と答えた方</b> →Q1で選択肢「1」を選んだ回答者にのみ、「自由解答欄の1番目」が表示されます。
<b>排他選択肢</b>
対象の選択肢と、他の選択肢が同時に選択された場合、回答者にエラーを表示します。

◆設定の記載が無い画面をごらんになる際は[こちらをクリック](#)してください。



新型コロナウイルスの社会的影響にかかわる調査

.....

当アンケートでは「**あなたご自身のデリケートな内容**」について  
お伺いする箇所が含まれております。  
本件趣旨にご同意くださる方は、ご回答をお願いいたします。

回答をしたくないと判断された場合はお手数ですが、  
「回答をやめる」ボタン、あるいはブラウザを閉じて、アンケートを終了してください。  
なお、当アンケートにより取得した回答結果につきましては、  
市場の実態把握のために活用させていただきます。

.....

お忙しいところ恐れ入りますが、下記アンケートにご協力をお願いいたします。

 「調査についての守秘義務」の徹底をお願いしています。決して第三者に口外しないよう、ご協力をお願いします。

 アンケート中は、ブラウザの「戻る」ボタンは押さぬようご注意ください。

•  必須入力

Q1

100%

当アンケートでは、以下の内容についてお伺いする箇所が含まれております。

- ・あなたご自身の病歴
- ・あなたの友人・知人の病歴  
※あなたの友人・知人の病歴については、友人・知人からの同意を代理でお取りいただく必要がございます。
- ・あなたの身近の方の死

上記内容を踏まえたうえで、本アンケートに回答することに同意いただけますか。

なお、当アンケートにより取得した回答結果につきましては、市場の実態把握のために活用させていただきます。  
ご回答頂いた方の個人を特定する情報等が公開されることはございませんのでご安心ください。

単一回答

必須回答

▲ とじる

① 同意する

② 同意しない



ここで改ページ

C1

現在、新型コロナウイルスの世界的流行（パンデミック）が起っています。日本国内においても、11月初旬現在、感染者数は10万人を超え、死亡者も1800人ほどになっています。4月7日から、7都府県において緊急事態が宣言され、その後、対象地域が全国に拡大され、外出自粛や休業の要請などが行われました。一時は感染者数は抑え込まれたものの、昨今では第3波の始まりが懸念されている状態です。本調査は、新型コロナウイルスによって引き起こされたさまざまな社会的影響について総合的に調査することを目的としています。是非、皆様方のご協力をお願いいたします。



ここで改ページ

- ①必須入力：項目【1】
- ①必須入力：項目【2】
- ①必須入力：項目【3】
- ①必須入力：項目【4】
- ①必須入力：項目【5】
- ①必須入力：項目【6】
- ①必須入力：項目【7】
- ①必須入力：項目【8】
- ①必須入力：項目【9】
- ①必須入力：項目【10】
- ①必須入力：項目【11】
- ①必須入力：項目【12】

## Q2

あなたは、新型コロナウイルスに関わる情報をどこで入手していますか。以下のそれぞれを見る頻度をお答えください。

※なお、以下で「ソーシャル・メディア」とは、ブログ、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）、画像や動画の共有サイト、メッセージングアプリ、情報共有サイト、ソーシャルブックマークなどを指します。

【その他以外必須】

◎ 単一回答

▲ とじる

0/13

1	新聞の紙面、新聞のウェブサイト、新聞がソーシャル・メディアで発する情報	▼
2	テレビ放送、テレビのウェブサイト、テレビがソーシャル・メディアで発する情報	▼
3	週刊誌の記事、週刊誌のウェブサイト、週刊誌がソーシャル・メディアで発する情報	▼
4	上記以外の国内のマスメディア（通信社など）、そのマスメディアのウェブサイト、そのマスメディアがソーシャル・メディアで発する情報	▼
5	ネットメディア（新聞やテレビなどのマスメディアではない）のウェブサイト、ネットメディアがソーシャル・メディアで発する情報	▼
6	ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で不特定の人々が発信した情報	▼
7	医学誌などの専門誌、医学会・医学誌のウェブサイト、医学会・医学誌がソーシャル・メディアで発する情報	▼
8	医師や病院のウェブサイト、医師や病院がソーシャル・メディアで発する情報	▼
9	政府や厚生労働省のウェブサイト、政府や厚生労働省がソーシャル・メディアで発する情報	▼
10	都道府県や市区町村のウェブサイト、都道府県や市区町村がソーシャル・メディアで発する情報	▼
11	海外のマスメディアのウェブサイト、海外のマスメディアがソーシャル・メディアで発する情報	▼
12	海外の各国政府や国連、各国の公衆衛生部門や世界保健機関、各国の外交部門・大使館等のウェブサイト、それらがソーシャル・メディアで発する情報	▼
13	その他（具体的に： <input type="text"/> ）	▲

① 1日に何度も見る

- ② 1日1回くらい見る
- ③ 2～3日に1回くらい見る
- ④ 1週間に1回くらい見る
- ⑤ 1ヶ月に1回くらい見る
- ⑥ ほとんど見ない
- ⑦ 全く見ない



- ①必須入力：項目【1】
- ①必須入力：項目【2】
- ①必須入力：項目【3】
- ①必須入力：項目【4】
- ①必須入力：項目【5】
- ①必須入力：項目【6】
- ①必須入力：項目【7】
- ①必須入力：項目【8】
- ①必須入力：項目【9】
- ①必須入力：項目【10】
- ①必須入力：項目【11】
- ①必須入力：項目【12】
- 回答参照：【Q2S13FA】

### Q3

あなたは、新型コロナウイルスに関わる情報を発信する以下のそれぞれについて、どの程度信用できると思いますか。

※なお、以下で「ソーシャル・メディア」とは、ブログ、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）、画像や動画の共有サイト、メッセージングアプリ、情報共有サイト、ソーシャルブックマークなどを指します。

【その他以外必須】

◎ 単一回答

▲ とじる

0/13

1	新聞の紙面、新聞のウェブサイト、新聞がソーシャル・メディアで発する情報	▼
2	テレビ放送、テレビのウェブサイト、テレビがソーシャル・メディアで発する情報	▼
3	週刊誌の記事、週刊誌のウェブサイト、週刊誌がソーシャル・メディアで発する情報	▼
4	上記以外の国内のマスメディア（通信社など）、そのマスメディアのウェブサイト、そのマスメディアがソーシャル・メディアで発する情報	▼
5	ネットメディア（新聞やテレビなどのマスメディアではない）のウェブサイト、ネットメディアがソーシャル・メディアで発する情報	▼
6	ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で不特定の人々が発信した情報	▼
7	医学誌などの専門誌、医学会・医学誌のウェブサイト、医学会・医学誌がソーシャル・メディアで発する情報	▼

8	医師や病院のウェブサイト、医師や病院がソーシャル・メディアで発する情報	▼
9	政府や厚生労働省のウェブサイト、政府や厚生労働省がソーシャル・メディアで発する情報	▼
10	都道府県や市区町村のウェブサイト、都道府県や市区町村がソーシャル・メディアで発する情報	▼
11	海外のマスメディアのウェブサイト、海外のマスメディアがソーシャル・メディアで発する情報	▼
12	海外の各国政府や国連、各国の公衆衛生部門や世界保健機関、各国の外交部門・大使館等のウェブサイト、それらがソーシャル・メディアで発する情報	▼
13	その他 【Q2S13FAの選択内容】	▲

- ① たいへん信用できる

---

- ② 信用できる

---

- ③ どちらかといえば信用できる

---

- ④ どちらとも言えない

---

- ⑤ どちらかといえば信用できない

---

- ⑥ 信用できない

---

- ⑦ 全く信用できない

---

- ⑧ 判断できない

---




- 作成制限超過 1 問分
- ①必須入力：項目【1】
- ①必須入力：項目【2】
- ①必須入力：項目【3】
- ①必須入力：項目【4】
- ①必須入力：項目【5】
- ①必須入力：項目【6】
- ①必須入力：項目【7】
- ①必須入力：項目【8】
- ①必須入力：項目【9】
- ①必須入力：項目【10】
- ①必須入力：項目【11】
- ①必須入力：項目【12】
- ①必須入力：項目【13】
- ①必須入力：項目【14】
- ①必須入力：項目【15】
- ①必須入力：項目【16】
- ①必須入力：項目【17】
- ①必須入力：項目【18】
- ①必須入力：項目【19】
- ①必須入力：項目【20】

**Q4**  
 新型コロナウイルスによる緊急事態宣言（4月7日）以降、以下の余暇活動を行う時間は増えましたか、それとも減りましたか。  
**【その他以外必須】**

1	家族とのだんらん	▼
2	友人などとの対面での交際	▼
3	ソーシャルメディア、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）などによるオンラインでの交流	▼
4	テレビゲーム、オンラインゲームなど	▼
5	テレビ・ラジオでのニュース・バラエティ番組・スポーツの視聴、新聞・雑誌での情報収集	▼
6	在宅での鑑賞（文学作品・漫画・アニメなどの鑑賞、DVD・CD・ストリーミング放送での音楽鑑賞・映画鑑賞など）	▼
7	外出しての鑑賞（美術館・博物館での鑑賞、コンサート会場・映画館での鑑賞など）	▼
8	趣味・娯楽（家庭菜園・趣味としての料理・手芸・釣り・パチンコなど）	▼
9	学習活動（新書・教養書などの読書、外国語教室・市民大学講座など）	▼
10	軽い運動やスポーツ活動（散歩・ジョギング・水泳・テニス・スキーなど）	▼
11	音楽ライブへの参加、競技場でのスポーツ観戦、祭り・イベントなどへの参加	▼
12	遊園地・テーマパークなどで遊ぶ	▼
13	外食・ショッピング	▼
14	宅配サービスや持ち帰りによる家での食事	▼
15	日帰りの行楽（ドライブ・ハイキング・温泉など）	▼
16	宿泊を伴う旅行	▼
17	地域や社会のための活動（祭り、各種ボランティア活動への参加など）	▼
18	宗教活動	▼
19	政治活動（政治集会・デモなど）	▼
20	休息・リラックス（ごろ寝・家での飲酒・マッサージ）	▼
21	その他（具体的に： <input type="text"/> ）	▲

- ① とても長くなった
- ② 少し長くなった
- ③ 変わらない
- ④ 少し短くなった
- ⑤ とても短くなった
- ⑥ もとからしておらず、4月7日以降もしていない





- 作成制限超過 1 問分
- ①必須入力：項目【1】
- ①必須入力：項目【2】
- ①必須入力：項目【3】
- ①必須入力：項目【4】
- ①必須入力：項目【5】
- ①必須入力：項目【6】
- ①必須入力：項目【7】
- ①必須入力：項目【8】
- ①必須入力：項目【9】
- ①必須入力：項目【10】
- ①必須入力：項目【11】
- ①必須入力：項目【12】
- ①必須入力：項目【13】
- ①必須入力：項目【14】
- ①必須入力：項目【15】
- ①必須入力：項目【16】
- ①必須入力：項目【17】
- ①必須入力：項目【18】
- ①必須入力：項目【19】
- ①必須入力：項目【20】
- 回答参照：【Q4S21FA】

## Q5

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言（4月7日）以降、以下の余暇活動にかけるお金は増えましたか、それとも減りましたか。

【その他以外必須】

◎ 単一回答

▲ とじる

0/21

1	家族とのだんらん	▼
2	友人などとの対面での交際	▼
3	ソーシャルメディア、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）などによるオンラインでの交流	▼
4	テレビゲーム、オンラインゲームなど	▼
5	テレビ・ラジオでのニュース・バラエティ番組・スポーツの視聴、新聞・雑誌での情報収集	▼
6	在宅での鑑賞（文学作品・漫画・アニメなどの鑑賞、DVD・CD・ストリーミング放送での音楽鑑賞・映画鑑賞など）	▼
7	外出しての鑑賞（美術館・博物館での鑑賞、コンサート会場・映画館での鑑賞など）	▼
8	趣味・娯楽（家庭菜園・趣味としての料理・手芸・釣り・パチンコなど）	▼
9	学習活動（新書・教養書などの読書、外国語教室・市民大学講座など）	▼
10	軽い運動やスポーツ活動（散歩・ジョギング・水泳・テニス・スキーなど）	▼
11	音楽ライブへの参加、競技場でのスポーツ観戦、祭り・イベントなどへの参加	▼
12	遊園地・テーマパークなどで遊ぶ	▼
13	外食・ショッピング	▼
14	宅配サービスや持ち帰りによる家での食事	▼

15	日帰りの行楽（ドライブ・ハイキング・温泉など）	▼
16	宿泊を伴う旅行	▼
17	地域や社会のための活動（祭り、各種ボランティア活動への参加など）	▼
18	宗教活動	▼
19	政治活動（政治集会・デモなど）	▼
20	休息・リラックス（ごろ寝・家での飲酒・マッサージ）	▼
21	その他 【Q4S21FAの選択内容】	▲

- ① とても増えた
- 
- ② 少し増えた
- 
- ③ 変わらない
- 
- ④ 少し減った
- 
- ⑤ とても減った
- 
- ⑥ もともとお金をかけておらず、4月7日以降もかけていない



• 必須入力(全項目)

## Q6

今年4月7日から最大で5月25日まで7都府県において緊急事態が宣言され、その後、対象地域が全国に拡大され、外出自粛要請などが行われました。

**緊急事態の期間中**、あなたは

緊急事態宣言以前と比べて、**通勤・通学や余暇活動などを全て含めた外出**をどのくらい自粛したかお答えください。

また、緊急事態宣言以前と比べて、**人との接触**をどのくらいまで減らしたかお答えください。

およその感じがかまいません。

単一回答  必須回答

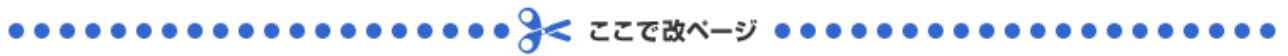
▲ とじる

0/2

1	外出	▼
2	人との接触	▲

- ① 緊急事態宣言以前に比べて、0～1割程度まで減らした（非常に減らした）
- 
- ② 緊急事態宣言以前に比べて、1～2割程度まで減らした
- 
- ③ 緊急事態宣言以前に比べて、2～4割程度まで減らした

- ④ 緊急事態宣言以前に比べて、4～6割程度まで減らした
- ⑤ 緊急事態宣言以前に比べて、6～8割程度まで減らした
- ⑥ 緊急事態宣言以前に比べて、8～9割程度まで減らした
- ⑦ 緊急事態宣言以前に比べて、9～10割程度まで減らした（少しだけ減らした／変えていない）
- ⑧ 緊急事態宣言以前に比べて、増えた



• 必須入力(全項目)

**Q7**  
 今年4月7日から最大で5月25日まで7都府県において緊急事態が宣言され、その後、対象地域が全国に拡大され、外出自粛要請などが行われました。

**現在**、あなたの外出はどのくらい元に戻りましたか。  
 緊急事態宣言以前と比べて、**通勤・通学や余暇活動などを全て含めた外出**がどの程度になっているかお答えください。

また、**現在**、あなたの人との接触はどのくらい元に戻りましたか、  
 緊急事態宣言以前と比べて、**人との接触**がどの程度になっているかお答えください。  
 およその感じがかまいません。

単一回答     必須回答    ▲ とじる

0/2

1 外出 ▼

2 人との接触 ▲

- ① 緊急事態宣言以前に比べて、0～1割程度になっている（ほとんど戻っていない）
- ② 緊急事態宣言以前に比べて、1～2割程度になっている
- ③ 緊急事態宣言以前に比べて、2～4割程度になっている
- ④ 緊急事態宣言以前に比べて、4～6割程度になっている
- ⑤ 緊急事態宣言以前に比べて、6～8割程度になっている
- ⑥ 緊急事態宣言以前に比べて、8～9割程度になっている
- ⑦ 緊急事態宣言以前に比べて、9～10割程度になっている（（ほとんど）戻った）
- ⑧ 緊急事態宣言以前に比べて、増えた



- ①必須入力(全項目)

## Q8

新型コロナウイルス感染症の流行にともなう外出自粛や休業要請により疲弊した景気や経済を再興させるため、今年7月22日以降、政府は「Go To トラベル」や「Go To イート」などの「Go To キャンペーン」を実施しています。

あなた、またはあなたのご家族は、これまでにこれらのキャンペーンを何回利用しましたか。

※Go To トラベルについては、例えば2泊3日の旅行に行った場合、1回の旅行として数えてください。

※Go To イートについては、オンラインでの飲食予約による1回の食事を1回として、また、プレミアム付き食事券の1回の購入を1回として、数えてください。そして、これらを合わせた回数をお答えください。

◎ 単一回答    ★ 必須回答

▲ とじる

0/2

1	Go To トラベル	▼
2	Go To イート	▲

- ① 利用したことがない
- ② 1回利用した
- ③ 2回利用した
- ④ 3～5回利用した
- ⑤ 6回以上利用した



- 作成制限超過 1 問分
- ①必須入力(全項目)

## Q9

新型コロナウイルス（COVID-19）の流行に関わる以下のようなことがらについて、あなたはどのようにお考えですか。

◎ 単一回答    ★ 必須回答

▲ とじる

0/29

1	新型コロナウイルスに感染することが怖い	▼
2	新型コロナウイルスに感染すれば、重症化したり後遺症が残ってしまうのではないかと 思う	▼
3	新型コロナウイルスに自分が感染したら、他人にうつしてしまうのではないかと 思う	▼
4	新型コロナウイルスの拡大写真を見ると怖い	▼

5	新型コロナウイルスの流行が、いつ収束するかわからないのが怖い	▼
6	新型コロナウイルスの流行後の自分の将来が見通せない	▼
7	新型コロナウイルスに感染しても、感染したことを友人・知人には知られたくない	▼
8	新型コロナウイルスに感染しても、感染したことを他人には誰にも知られたくない	▼
9	新型コロナウイルスに感染すると、友人・知人から避けられるのではないかと思う	▼
10	新型コロナウイルスに感染すると、見ず知らずの人から避けられるのではないかと思う	▼
11	新型コロナウイルスに感染すると、友人・知人からひどい扱いを受けるのではないかと思う	▼
12	新型コロナウイルスに感染すると、見ず知らずの人からひどい扱いを受けるのではないかと思う	▼
13	新型コロナウイルスは、自分や家族に一時的に大きな経済的な損失を与える	▼
14	新型コロナウイルスは、自分や家族に長期的な経済的損失を与える	▼
15	新型コロナウイルスは、自分の友人や知人の多くに経済的な損失を与える	▼
16	新型コロナウイルスは、日本経済に大きな損失を与える	▼
17	新型コロナウイルスによる経済損失が大きく、日本経済は長期的に回復しない	▼
18	新型コロナウイルスは、世界経済に大きな損失を与える	▼
19	新型コロナウイルスによる経済損失が大きく、日本経済は世界各国に遅れを取ってしまう	▼
20	新型コロナウイルスによる経済損失から世界に先んじて回復すれば、日本経済は世界各国より優位に立てる	▼
21	手洗いをこまめに行うようにしている	▼
22	なるべく頻繁に除菌ジェルや除菌スプレーを使うようにしている	▼
23	外出時はなるべくマスクを付けるようにしている	▼
24	咳をするときには、マスクやハンカチ、ひじの内側などを使って、必ず口や鼻を覆う	▼
25	頻繁に換気をするようにしている	▼
26	換気の悪い場所に行かないようにしている	▼
27	人混みを避けるようにしている	▼
28	他の人との距離を取るようにしている	▼
29	体調が悪いときには、外出しないようにしている	▲

① とてもそう思う

② そう思う

- ③ ややそう思う
- ④ あまりそう思わない
- ⑤ そう思わない
- ⑥ 全くそう思わない



- ① 必須入力

## Q10

あなたは、新型コロナウイルスの接触確認アプリ（COCOAなど）を利用していますか。

単一回答  必須回答

▲ とじる

- ① インストール（導入）している
- ② インストール（導入）していない
- ③ インストール（導入）したが削除した



- セレクト条件：【Q10】で1と答えた方
- ① 必須入力

## Q11

新型コロナウイルスの接触確認アプリをどのくらいよく確認しますか。

単一回答  必須回答

- ① 1日1回以上
- ② 2～3日に1回くらい
- ③ 1週間に1回くらい
- ④ 1ヶ月に1回くらいまたはそれ以下



- ① 必須入力(全項目)

## Q12

新型コロナウイルスの接触確認アプリに関わる以下のことがらについて、あなたはどのように思いますか。

次に、お住まいの地域について、あなたはどのように思いますか。

○ 単一回答    ★ 必須回答

▲ とじる

0/13

新型コロナウイルスの接触確認アプリに関わることがら

- |   |   |   |
|---|---|---|
| 1 | このアプリを利用することで感染予防になる                                    | ▼ |
| 2 | このアプリの監視により新型コロナウイルスに感染しない                              | ▼ |
| 3 | このアプリは人々の行動という個人情報を利用するものだが、このやり方は新型コロナウイルスの感染症対策として適切だ | ▼ |
| 4 | このアプリは人々の行動という個人情報を把握されることになるので不安だ                      | ▼ |
| 5 | このアプリは感染者と接触したかわかるので、安心だ                                | ▼ |
| 6 | このアプリは感染者と接触したかわかるので、感染したのではないかと不安になる                   | ▼ |
| 7 | このアプリは監視されているようで安心する                                    | ▼ |
| 8 | このアプリは監視されているようで不安になる                                   | ▼ |

お住まいの地域について

- |    |                            |   |
|----|----------------------------|---|
| 9  | 私の住む地域のことはだいたい知っている        | ▼ |
| 10 | 近所のどこにどのような人が住んでいるかよく知っている | ▼ |
| 11 | 私のことは近所の人によく知られている         | ▼ |
| 12 | 私の住む地域の人々は、たいていは知り合い同士だ    | ▼ |
| 13 | この地域で起きたことは、すぐに耳に入ってくる     | ▲ |

- |   |           |
|---|-----------|
| ① | とてもそう思う   |
| ② | そう思う      |
| ③ | ややそう思う    |
| ④ | あまりそう思わない |
| ⑤ | そう思わない    |
| ⑥ | 全くそう思わない  |



• ⑬ 必須入力(全項目)

## Q13 お住まいの地域において、次のようなことがどのくらいありますか。

① 単一回答 ★ 必須回答

0/2

1 私の住む地域の人から、同じ地域の人が新型コロナウイルスに感染したという話を聞くこと ▼

2 私の住む地域の人に、同じ地域の人が新型コロナウイルスに感染したという話を伝えること ▲

① よくある

② ときどきある

③ たまにある

④ 全くない



- ① 必須入力

## Q14

あなたは、新型コロナウイルス感染症で入院したことがありますか？

① 単一回答 ★ 必須回答

① はい

② いいえ



- ① 必須にする(全てのFA欄)
- 1\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 2\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数

## Q15

あなたの友人・知人の中に新型コロナウイルス（COVID-19）の感染者はいますか？  
その人数をお答えください。

また、あなたの友人・知人の中に2011年3月の東日本大震災で亡くなった人は関連死を含めて何人いますか？ その人数をお答えください。

いない場合や、いるかどうかわからない場合は0（人）とお答えください。

★ 必須回答

▲ とじる

友人・知人の中の新型コロナウイルス（COVID-19）の感染者

人いる

友人・知人の中の東日本大震災で亡くなった方



(半角数字)

人いる



ここで改ページ

- ①必須にする(全てのFA欄)
- 1\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 2\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 3\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 4\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 5\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 6\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 7\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 8\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 9\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 10\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 11\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 12\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 13\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 14\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 15\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 16\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 17\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 18\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 19\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数
- 20\_N: 半角数字 / 最小0 / 整数

## Q16

下にいくつかの苗字を示します。あなたの友人・知人の中で、次のような苗字の方は、何人いますか。いる場合、その人数をご記入ください。その苗字の友人・知人がいない場合には、0（ゼロ）を記入してください。

★ 必須回答

▲ とじる

岩崎	(半角数字)	人
平野	(半角数字)	人
上野	(半角数字)	人
高田	(半角数字)	人
石田	(半角数字)	人
和田	(半角数字)	人
田村	(半角数字)	人
中野	(半角数字)	人
松田	(半角数字)	人
青木	(半角数字)	人
松井	(半角数字)	人
小山	(半角数字)	人
村田	(半角数字)	人
大野	(半角数字)	人
横山	(半角数字)	人
柴田	(半角数字)	人
中山	(半角数字)	人
岡田	(半角数字)	人

小川  人  
藤田  人



- 作成制限超過 1 問分
- 必須入力(全項目)

## Q17

あなた自身について、いくつかお尋ねします。以下の文章について、それぞれの文章があなた自身にどの程度あてはまるかを考え、あてはまる数字を選んでください。

単一回答     必須回答    ▲ とじる

0/20

1	まわりの人と協力していると心地よく感じる	▼
2	つい人の視線が気になってしまう	▼
3	たいていは自分だけで物事の決断をする	▼
4	つねに自分自身の意見を持つようにしている	▼
5	自分の意見をいつもはっきり言う	▼
6	まわりの人が自分をどう思っているかが、つい気になる	▼
7	まわりの人との間で和をたもつことを大切にしている	▼
8	まわりの人のお気持ちを尊重するようにしている	▼
9	ほかの人とはちがった生き方をしたい	▼
10	人と話をするときには、直接的にずばりと言う方が好きだ	▼
11	まわりの人との関係や、地位のちがいがつい気になってしまう	▼
12	相手を傷つけないようにあいまいな表現をするより、はっきりと自分の考えを伝えるようにしている	▼
13	ほかの人とはちがう自分が好きだ	▼
14	いつも自分の立場をちゃんと主張するようにしている	▼
15	自分の利益にならなくても、まわりの人役に立つことができたらうれしい	▼
16	自分の好きなようにできなくなるくらいなら、人の助けを求めたいとは思わない	▼
17	まわりの人やどう思うかが気になって、自分のしたいことをそのままできないことがある	▼
18	いつもまわりの人立場にたって物事を考えるようにしている	▼
19	まわりの人に左右されない生き方をしたい	▼
20	まわりの人からきられないようにふるまうことがよくある	▲

① あてはまる

- ② ややあてはまる
- ③ どちらともいえない
- ④ あまりあてはまらない
- ⑤ あてはまらない



- ① 必須入力(全項目)

## Q18

あなたの考えに最も近い数字を選んでください。

- 単一回答
- 必須回答

0/5

- 1 私は人を信頼するほうである ▼
- 2 ほとんどの人は信頼できる ▼
- 3 ほとんどの人は基本的に善良で親切である ▼
- 4 私は自分自身のことを、活発で、外交的だと思う ▼
- 5 私は自分自身のことを、ひかえめで、おとなしいと思う ▲

- ① そう思う
- ② ややそう思う
- ③ あまりそう思わない
- ④ そう思わない



- ① 必須入力(全項目)

## Q19

世の中のありかたについて次のような意見があります。あなたはどのように思いますか。あなたの考えにいちばん近い番号をひとつ選んでください。

- 単一回答
- 必須回答

▲ とじる

0/4

- 1 権威ある人々にはつねに敬意を払わなければならない ▼
- 2 以前からなされてきたやり方を守ることが、最上の結果を生む ▼
- 3 伝統や習慣にしたがったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題を引き起こすことになる ▼

4 この複雑な世の中で何をすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである ▲

- ① そう思う
- ② どちらかといえばそう思う
- ③ どちらともいえない
- ④ どちらかといえばそう思わない
- ⑤ そう思わない



- ① 必須入力
- ⑦\_FA : 必須入力

## Q20

あなたが通ったことのある学校を、すべてお聞かせください。  
中退・通学中の学校も選んでください。

✓ 複数回答   ★ 必須回答

▲ とじる

- 1 中学校・旧制小学校
- 2 高校・旧制中学校
- 3 専門学校
- 4 短大・高専
- 5 大学・旧制高校
- 6 大学院・旧制大学
- 7 その他（具体的に  ）



- ① 必須入力

## Q21

あなたの現在のお仕事についてうかがいます。複数の仕事をお持ちの場合は、主な仕事についてうかがいます。

あなたはどのような形で働いていますか。

⊙ 単一回答   ★ 必須回答

▲ とじる

- ① 従業員30人以上の経営者・役員
- ② 正規雇用（公務員を含む）・常時雇用の一般従業員
- ③ 臨時雇用・パート・アルバイト
- ④ 派遣社員・契約社員・嘱託社員
- ⑤ 従業員30人未満の経営者・自営業主（農業を含む）・家族従業者・自由業者・内職
- ⑥ 無職・家事
- ⑦ 学生・生徒



- セレクト条件：【Q21】で1-5と答えた方
- ①必須入力

## Q22

あなたはどのような仕事をしていますか。

- 単一回答
  必須回答

- ① 農林漁業職（植木職、造園業を含む）
- ② 技能・労務・作業系の職業（工場労働者、自衛官、警察官、職人、建設作業員、運転手など）
- ③ 販売・サービス系の職業（店主、店員、営業社員、美容師、クリーニング、給仕、接客、清掃、ヘルパーなど）
- ④ 事務的職業（事務員、銀行員など）
- ⑤ 管理的職業（課長相当以上の管理職、議員など）
- ⑥ 専門的職業（医師、弁護士、教員、エンジニア、プログラマー、看護師、介護士、作家、デザイナー、編集者など）



- セレクト条件：【Q21】で1-5と答えた方
- ①必須入力

## Q23

あなたの仕事は、次のようなものに当てはまりますか。当てはまる場合にはチェックを入れてください。当てはまるものがない場合には、最後の「当てはまるものはない」にチェックを入れてください。

- 単一回答
  必須回答

▲ とじる

① 医療・看護従事者

② 福祉・介護従事者

③ 接待を伴う飲食店

④ 接待を伴わない飲食店

⑤ 対面的接触が多い店員や販売員

⑥ 理容・美容・エステなど身体接触のある職業の従事者

⑦ 公共交通機関（タクシーを含む）や宅配業務の従業者

⑧ 外回りの営業員

⑨ 流れ作業を伴う工場での従業員

⑩ 当てはまるものはない



- セレクト条件：【Q21】で1-5,7と答えた方
- ①必須にする(全てのFA欄)
- 1\_N：半角数字 / 最小0 / 整数
- 2\_N：半角数字 / 最小0 / 最大59 / 整数

## Q24

現在、通勤・通学時間は片道どのくらいですか。なお、自宅でお仕事をされている方は「0」分とお答えください。テレワークと職場での仕事が両方ある場合は、職場までの時間をお答えください。

★ 必須回答

▲ とじる

片道 約  時間  分



- セレクト条件：【Q21】で1-5,7と答えた方
- ①必須入力
- ④4\_FA：必須入力
- 排他選択肢：7. 徒歩のみ  
排他選択肢：8. 自宅勤務（通勤なし）

## Q25

あなたのふだんの通勤・通学のための交通手段について教えて下さい。次のうち当てはまるもの全てを選んでください。なお、自宅でお仕事をされている方は「自宅勤務（通勤なし）」とお答えください。テレワークと職場での仕事が両方ある場合は、職場に行くまでの交通手段をお答えください。

✓ 複数回答

★ 必須回答

▲ とじる

- 1 公共交通機関（電車・バス）

---

- 2 タクシー

---

- 3 自家用車・社用車

---

- 4 その他の乗り物（具体的に：）

---

- 5 自宅から駅・停留所・駐車場までの10分以上の徒歩

---

- 6 駅・停留所・駐車場から職場までの10分以上の徒歩

---

- 7 徒歩のみ

---

- 8 自宅勤務（通勤なし）



- セレクト条件：【Q21】で1-5,7と答えた方
- ①必須入力(全項目)

## Q26

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言（4月7日）以前、以降、現在それぞれについて、1週間あたり何日の自宅勤務（テレワーク）、またはオンライン授業の受講を行っていましたか。

⊙ 単一回答
★ 必須回答
▲ とじる

0/3

- 1 新型コロナウイルスによる緊急事態宣言以前 ▼
  - 2 新型コロナウイルスによる緊急事態宣言以降 ▼
  - 3 現在 ▲
- ① 0日

---

  - ② 1日

---

  - ③ 2日

---

  - ④ 3日

---

  - ⑤ 4日

---

  - ⑥ 5日以上



- ①必須入力(全項目)
- 項目【1】 14\_N：半角数字 / 最小3000 / 整数
- ①項目【1】 14\_N：必須入力
- 項目【2】 14\_N：半角数字 / 最小3000 / 整数

## Q27

令和元年（2019年）1～12月のあなたの収入は、税込みでいくらぐらいでしたか。年金、株式配当などすべての収入について、臨時収入、副収入も含めてお答えください。

また、令和元年（2019年）1～12月のあなたの世帯全体の収入（あなたと配偶者とその他の方の合計）は、税込みでいくらぐらいでしたか。年金、株式配当などすべての収入について、臨時収入、副収入も含めてお答えください。

◎ 単一回答    ★ 必須回答

▲ とじる

0/2

1	あなたの収入	▼
2	あなたの世帯収入	▲
①	25万円未満	
②	25～50万円未満	
③	50～100万円未満	
④	100～200万円未満	
⑤	200～300万円未満	
⑥	300～400万円未満	
⑦	400～600万円未満	
⑧	600～800万円未満	
⑨	800～1,000万円未満	
⑩	1,000～1,500万円未満	
⑪	1,500～2,000万円未満	
⑫	2,000～2,500万円未満	
⑬	2,500～3,000万円未満	
⑭	3,000万円以上	
	(具体的に <input type="text" value="(半角数字)(必須入力)"/> 万円)	



## Q28



令和2年（2020年）のあなたの収入は、前年と比べてどのようになると見込まれますか。

また、令和2年（2020年）のあなたの世帯全体の収入は、前年と比べてどのようになると見込まれますか。

答えは、だいたいでかまいません。

単一回答  必須回答

▲ とじる

0/2

1	あなたの収入	▼
2	あなたの世帯収入	▲

- ① 前年の0～2割程度
- ② 前年の2～5割程度
- ③ 前年の5～8割程度
- ④ 前年の8～9割5分程度
- ⑤ 前年の9割5分～11割程度（ほぼ同じ程度）
- ⑥ 前年の11割以上



- ①必須入力

## Q29

あなたは現在結婚されていますか。結婚には、結婚届を出していない内縁の関係も含みます。

単一回答  必須回答

▲ とじる

- ① 結婚したことはない（未婚）
- ② 結婚している（現在配偶者がいる）
- ③ 離別した
- ④ 死別した



- ①必須にする(全てのFA欄)
- 1\_N：半角数字 / 最小0 / 整数
- 2\_N：半角数字 / 最小1 / 整数

## Q30

あなたには、高校生以下（高校生を含む）のお子さんが何人いますか。いない場合は、0人と記入して下さい。

また、現在、あなたといっしょに住んでいる方は、あなたを含めて全部で何人ですか。一時的に別居している方は除いてご記入ください。（数字を記入してください）

★ 必須回答

▲ とじる

高校生以下のお子さん  人

あなたといっしょに住んでいる方 （あなた含めて）  人



- ① 必須入力

### Q31

あなたが住んでいるところは、どのようなところですか。最も当てはまると思うところを選んでください。

◎ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

- ① 大都市の中心部
- ② 大都市の郊外
- ③ 中小都市の中心部
- ④ 中小都市の郊外
- ⑤ 農村・漁村、田舎

アンケートは以上で終わりです。  
ご協力ありがとうございました。  
送信ボタンを押してください。

送 信

## 「新型コロナウイルスの社会的影響にかんする調査」 基礎集計表

### 基礎集計表にかかわる注意事項

- この集計表は、回収された724票の単純集計を示したものです。設問により、無回答や非該当があります。無回答については、項目として示し、その度数と%を示しています。非該当については、それを除いた度数と%を示しています。
- 自由回答については、既存の項目に含まれる内容の場合は、既存の項目に算入しています。それ以外の場合には、集計していません。
- 基本的なデータクリーニング作業は終了していますが、今後の作業の進展に伴い、数値の訂正が生じることがあります。そのため、本調査のデータ、および分析結果は、今後の発表等において本報告書にあるものと数値が異なる可能性があります。

## 基礎集計表

Q1

<p>当アンケートでは、以下の内容についてお伺いする箇所が含まれております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたご自身の病歴</li> <li>・あなたの友人・知人の病歴</li> <li>※あなたの友人・知人の病歴については、友人・知人からの同意を代理でお取りいただく必要がございます。</li> <li>・あなたの身近の方の死</li> </ul> <p>上記内容を踏まえたうえで、本アンケートに回答することに同意いただけますか。</p> <p>なお、当アンケートにより取得した回答結果につきましては、市場の実態把握のために活用させていただきます。ご回答頂いた方の個人を特定する情報等が公開されることはございませんのでご安心ください。</p>			
	単一回答	N	%
1	同意する	724	100.0
2	同意しない	0	0.0
	全体	724	100.0

Q2

<p>あなたは、新型コロナウイルスに関わる情報をどこで入手していますか。以下のそれぞれを見る頻度をお答えください。                  ※なお、以下で「ソーシャル・メディア」とは、ブログ、ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)、画像や動画の共有サイト、メッセージングアプリ、情報共有サイト、ソーシャルブックマークなどを指します。                  【その他以外必須】</p>										
	単一回答	全体	1	2	3	4	5	6	7	無回答
			1日に何度も見る	1日1回くらい見る	2～3日に1回くらい見る	1週間に1回くらい見る	1ヶ月に1回くらい見る	ほとんど見ない	全く見ない	
1	新聞の紙面、新聞のウェブサイト、新聞がソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	121 16.7	262 36.2	49 6.8	31 4.3	3 0.4	80 11.0	178 24.6	0 0.0
2	テレビ放送、テレビのウェブサイト、テレビがソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	365 50.4	219 30.2	53 7.3	20 2.8	4 0.6	28 3.9	35 4.8	0 0.0
3	週刊誌の記事、週刊誌のウェブサイト、週刊誌がソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	23 3.2	60 8.3	33 4.6	66 9.1	31 4.3	224 30.9	287 39.6	0 0.0
4	上記以外の国内のマスメディア (通信社など)、そのマスメディアのウェブサイト、そのマスメディアがソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	78 10.8	114 15.7	64 8.8	60 8.3	17 2.3	168 23.2	223 30.8	0 0.0
5	ネットメディア (新聞やテレビなどのマスメディアではない) のウェブサイト、ネットメディアがソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	185 25.6	236 32.6	69 9.5	42 5.8	11 1.5	72 9.9	109 15.1	0 0.0
6	ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) で不特定の人々が発信した情報	724 100.0	103 14.2	101 14.0	48 6.6	41 5.7	15 2.1	174 24.0	242 33.4	0 0.0
7	医学誌などの専門誌、医学会・医学誌のウェブサイト、医学会・医学誌がソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	15 2.1	36 5.0	32 4.4	52 7.2	50 6.9	208 28.7	331 45.7	0 0.0
8	医師や病院のウェブサイト、医師や病院がソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	11 1.5	34 4.7	29 4.0	38 5.2	58 8.0	219 30.2	335 46.3	0 0.0
9	政府や厚生労働省のウェブサイト、政府や厚生労働省がソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	25 3.5	69 9.5	40 5.5	70 9.7	82 11.3	204 28.2	234 32.3	0 0.0
10	都道府県や市区町村のウェブサイト、都道府県や市区町村がソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	35 4.8	101 14.0	67 9.3	84 11.6	99 13.7	150 20.7	188 26.0	0 0.0
11	海外のマスメディアのウェブサイト、海外のマスメディアがソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	17 2.3	45 6.2	35 4.8	40 5.5	30 4.1	191 26.4	366 50.6	0 0.0
12	海外の各国政府や国連、各国の公衆衛生部門や世界保健機関、各国の外交部門・大使館等のウェブサイト、それらがソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	10 1.4	37 5.1	33 4.6	24 3.3	29 4.0	192 26.5	399 55.1	0 0.0
13	その他 (具体的に:【 】)	724 100.0	10 1.4	14 1.9	4 0.6	6 0.8	6 0.8	79 10.9	500 69.1	105 14.5

あなたは、新型コロナウイルスに関わる情報を発信する以下のそれぞれについて、どの程度信用できると思いますか。 ※なお、以下で「ソーシャル・メディア」とは、ブログ、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）、画像や動画の共有サイト、メッセージングアプリ、情報共有サイト、ソーシャルブックマークなどを指します。 【 その他以外必須 】											
	単一回答	全体	1	2	3	4	5	6	7	8	無回答
			たいへん信用できる	信用できる	どちらかといえば信用できる	どちらとも言えない	どちらかといえば信用できない	信用できない	全く信用できない	判断できない	
1	新聞の紙面、新聞のウェブサイト、新聞がソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	41 5.7	206 28.5	246 34.0	150 20.7	29 4.0	21 2.9	16 2.2	15 2.1	0 0.0
2	テレビ放送、テレビのウェブサイト、テレビがソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	24 3.3	171 23.6	258 35.6	163 22.5	55 7.6	24 3.3	22 3.0	7 1.0	0 0.0
3	週刊誌の記事、週刊誌のウェブサイト、週刊誌がソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	10 1.4	45 6.2	128 17.7	299 41.3	112 15.5	72 9.9	30 4.1	28 3.9	0 0.0
4	上記以外の国内のマスメディア（通信社など）、そのマスメディアのウェブサイト、そのマスメディアがソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	16 2.2	87 12.0	193 26.7	302 41.7	60 8.3	29 4.0	13 1.8	24 3.3	0 0.0
5	ネットメディア（新聞やテレビなどのマスメディアではない）のウェブサイト、ネットメディアがソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	13 1.8	59 8.1	202 27.9	295 40.7	82 11.3	38 5.2	16 2.2	19 2.6	0 0.0
6	ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で不特定の人々が発信した情報	724 100.0	9 1.2	23 3.2	74 10.2	234 32.3	170 23.5	111 15.3	79 10.9	24 3.3	0 0.0
7	医学誌などの専門誌、医学会・医学誌のウェブサイト、医学会・医学誌がソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	51 7.0	229 31.6	211 29.1	166 22.9	25 3.5	11 1.5	6 0.8	25 3.5	0 0.0
8	医師や病院のウェブサイト、医師や病院がソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	60 8.3	199 27.5	238 32.9	167 23.1	22 3.0	5 0.7	11 1.5	22 3.0	0 0.0
9	政府や厚生労働省のウェブサイト、政府や厚生労働省がソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	47 6.5	195 26.9	217 30.0	181 25.0	35 4.8	20 2.8	14 1.9	15 2.1	0 0.0
10	都道府県や市区町村のウェブサイト、都道府県や市区町村がソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	45 6.2	207 28.6	229 31.6	169 23.3	39 5.4	15 2.1	6 0.8	14 1.9	0 0.0
11	海外のマスメディアのウェブサイト、海外のマスメディアがソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	10 1.4	63 8.7	160 22.1	337 46.5	59 8.1	28 3.9	17 2.3	50 6.9	0 0.0
12	海外の各国政府や国連、各国の公衆衛生部門や世界保健機関、各国の外交部門・大使館等のウェブサイト、それらがソーシャル・メディアで発する情報	724 100.0	24 3.3	80 11.0	182 25.1	307 42.4	53 7.3	17 2.3	13 1.8	48 6.6	0 0.0
13	その他 【Q2S13FA の選択内容】	724 100.0	5 0.7	21 2.9	36 5.0	320 44.2	44 6.1	19 2.6	9 1.2	190 26.2	80 11.0

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言（4月7日）以降、以下の余暇活動を行う時間は増えましたか、それとも減りましたか。 【 その他以外必須 】									
	単一回答	全体	1	2	3	4	5	6	無回答
			とても長くなった	少し長くなった	変わらない	少し短くなった	とても短くなった	もとからしておらず、4月7日以降もしていない	
1	家族とのだんらん	724	79	172	376	24	15	58	0
		100.0	10.9	23.8	51.9	3.3	2.1	8.0	0.0
2	友人などとの対面での交際	724	5	14	156	166	298	85	0
		100.0	0.7	1.9	21.5	22.9	41.2	11.7	0.0
3	ソーシャルメディア、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）などによるオンラインでの交流	724	31	124	308	24	15	222	0
		100.0	4.3	17.1	42.5	3.3	2.1	30.7	0.0
4	テレビゲーム、オンラインゲームなど	724	45	112	255	19	7	286	0
		100.0	6.2	15.5	35.2	2.6	1.0	39.5	0.0
5	テレビ・ラジオでのニュース・バラエティ番組・スポーツの視聴、新聞・雑誌での情報収集	724	67	216	378	19	13	31	0
		100.0	9.3	29.8	52.2	2.6	1.8	4.3	0.0
6	在宅での鑑賞（文学作品・漫画・アニメなどの鑑賞、DVD・CD・ストリーミング放送での音楽鑑賞・映画鑑賞など）	724	76	207	348	16	5	72	0
		100.0	10.5	28.6	48.1	2.2	0.7	9.9	0.0
7	外出しての鑑賞（美術館・博物館での鑑賞、コンサート会場・映画館での鑑賞など）	724	5	21	141	103	271	183	0
		100.0	0.7	2.9	19.5	14.2	37.4	25.3	0.0
8	趣味・娯楽（家庭菜園・趣味としての料理・手芸・釣り・パチンコなど）	724	24	125	349	67	57	102	0
		100.0	3.3	17.3	48.2	9.3	7.9	14.1	0.0
9	学習活動（新書・教養書などの読書、外国語教室・市民大学講座など）	724	14	58	299	43	42	268	0
		100.0	1.9	8.0	41.3	5.9	5.8	37.0	0.0
10	軽い運動やスポーツ活動（散歩・ジョギング・水泳・テニス・スキーなど）	724	23	83	270	96	78	174	0
		100.0	3.2	11.5	37.3	13.3	10.8	24.0	0.0
11	音楽ライブへの参加、競技場でのスポーツ観戦、祭り・イベントなどへの参加	724	5	19	136	77	214	273	0
		100.0	0.7	2.6	18.8	10.6	29.6	37.7	0.0
12	遊園地・テーマパークなどで遊ぶ	724	3	7	124	83	206	301	0
		100.0	0.4	1.0	17.1	11.5	28.5	41.6	0.0
13	外食・ショッピング	724	6	25	184	232	241	36	0
		100.0	0.8	3.5	25.4	32.0	33.3	5.0	0.0
14	宅配サービスや持ち帰りによる家での食事	724	30	188	297	25	20	164	0
		100.0	4.1	26.0	41.0	3.5	2.8	22.7	0.0
15	日帰りの行楽（ドライブ・ハイキング・温泉など）	724	5	38	197	133	199	152	0
		100.0	0.7	5.2	27.2	18.4	27.5	21.0	0.0
16	宿泊を伴う旅行	724	8	19	133	96	287	181	0
		100.0	1.1	2.6	18.4	13.3	39.6	25.0	0.0
17	地域や社会のための活動（祭り、各種ボランティア活動への参加など）	724	5	9	150	66	157	337	0
		100.0	0.7	1.2	20.7	9.1	21.7	46.5	0.0
18	宗教活動	724	5	8	90	24	21	576	0
		100.0	0.7	1.1	12.4	3.3	2.9	79.6	0.0
19	政治活動（政治集会・デモなど）	724	3	8	81	17	16	599	0
		100.0	0.4	1.1	11.2	2.3	2.2	82.7	0.0
20	休息・リラックス（ごろ寝・家での飲酒・マッサージ）	724	71	197	336	28	22	70	0
		100.0	9.8	27.2	46.4	3.9	3.0	9.7	0.0
21	その他（具体的に：【       】）	724	8	13	283	12	5	280	123
		100.0	1.1	1.8	39.1	1.7	0.7	38.7	17.0

## Q5

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言（4月7日）以降、以下の余暇活動にかかるお金は増えましたか、それとも減りましたか。 【その他以外必須】									
単一回答	全体	1	2	3	4	5	6	無回答	
		とても増えた	少し増えた	変わらない	少し減った	とても減った	もともとお金をかけておらず、4月7日以降もかけていない		
1	家族とのだんらん	724	38	146	403	29	18	90	0
		100.0	5.2	20.2	55.7	4.0	2.5	12.4	0.0
2	友人などとの対面での交際	724	3	21	207	159	236	98	0
		100.0	0.4	2.9	28.6	22.0	32.6	13.5	0.0
3	ソーシャルメディア、ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（SNS）などによるオンラインでの交流	724	14	51	308	15	20	316	0
		100.0	1.9	7.0	42.5	2.1	2.8	43.6	0.0
4	テレビゲーム、オンラインゲームなど	724	20	89	227	16	12	360	0
		100.0	2.8	12.3	31.4	2.2	1.7	49.7	0.0
5	テレビ・ラジオでのニュース・バラエティ番組・スポーツの視聴、新聞・雑誌での情報収集	724	22	93	364	25	7	213	0
		100.0	3.0	12.8	50.3	3.5	1.0	29.4	0.0
6	在宅での鑑賞（文学作品・漫画・アニメなどの鑑賞、DVD・CD・ストリーミング放送での音楽鑑賞・映画鑑賞など）	724	28	140	339	23	12	182	0
		100.0	3.9	19.3	46.8	3.2	1.7	25.1	0.0
7	外出しての鑑賞（美術館・博物館での鑑賞、コンサート会場・映画館での鑑賞など）	724	5	29	164	109	199	218	0
		100.0	0.7	4.0	22.7	15.1	27.5	30.1	0.0
8	趣味・娯楽（家庭菜園・趣味としての料理・手芸・釣り・パチンコなど）	724	17	90	318	78	69	152	0
		100.0	2.3	12.4	43.9	10.8	9.5	21.0	0.0
9	学習活動（新書・教養書などの読書、外国語教室・市民大学講座など）	724	14	40	260	42	43	325	0
		100.0	1.9	5.5	35.9	5.8	5.9	44.9	0.0
10	軽い運動やスポーツ活動（散歩・ジョギング・水泳・テニス・スキーなど）	724	13	49	259	75	59	269	0
		100.0	1.8	6.8	35.8	10.4	8.1	37.2	0.0
11	音楽ライブへの参加、競技場でのスポーツ観戦、祭り・イベントなどへの参加	724	6	20	162	73	166	297	0
		100.0	0.8	2.8	22.4	10.1	22.9	41.0	0.0
12	遊園地・テーマパークなどで遊ぶ	724	5	15	138	93	184	289	0
		100.0	0.7	2.1	19.1	12.8	25.4	39.9	0.0
13	外食・ショッピング	724	11	51	211	206	201	44	0
		100.0	1.5	7.0	29.1	28.5	27.8	6.1	0.0
14	宅配サービスや持ち帰りによる家での食事	724	36	191	250	34	32	181	0
		100.0	5.0	26.4	34.5	4.7	4.4	25.0	0.0
15	日帰りの行楽（ドライブ・ハイキング・温泉など）	724	8	35	210	129	189	153	0
		100.0	1.1	4.8	29.0	17.8	26.1	21.1	0.0
16	宿泊を伴う旅行	724	4	20	156	113	275	156	0
		100.0	0.6	2.8	21.5	15.6	38.0	21.5	0.0
17	地域や社会のための活動（祭り、各種ボランティア活動への参加など）	724	3	17	151	59	93	401	0
		100.0	0.4	2.3	20.9	8.1	12.8	55.4	0.0
18	宗教活動	724	6	14	92	24	23	565	0
		100.0	0.8	1.9	12.7	3.3	3.2	78.0	0.0
19	政治活動（政治集会・デモなど）	724	1	11	86	20	19	587	0
		100.0	0.1	1.5	11.9	2.8	2.6	81.1	0.0
20	休息・リラックス（ごろ寝・家での飲酒・マッサージ）	724	31	117	349	35	30	162	0
		100.0	4.3	16.2	48.2	4.8	4.1	22.4	0.0
21	その他 【Q4S21FAの選択内容】	724	1	14	263	25	16	296	109
		100.0	0.1	1.9	36.3	3.5	2.2	40.9	15.1



Q6

<p>今年4月7日から最大で5月25日まで7都府県において緊急事態が宣言され、その後、対象地域が全国に拡大され、外出自粛要請などが行われました。</p> <p>緊急事態の期間中、あなたは緊急事態宣言以前と比べて、通勤・通学や余暇活動などを全て含めた外出をどのくらい自粛したかお答えください。</p> <p>また、緊急事態宣言以前と比べて、人との接触をどのくらいまで減らしたかお答えください。およその感じがかまいません。</p>										
	単一回答		1	2	3	4	5	6	7	8
		全体	緊急事態宣言以前に比べて、0~1割程度まで減らした(非常に減らした)	緊急事態宣言以前に比べて、1~2割程度まで減らした	緊急事態宣言以前に比べて、2~4割程度まで減らした	緊急事態宣言以前に比べて、4~6割程度まで減らした	緊急事態宣言以前に比べて、6~8割程度まで減らした	緊急事態宣言以前に比べて、8~9割程度まで減らした	緊急事態宣言以前に比べて、9~10割程度まで減らした(少しか減らした/変えていない)	緊急事態宣言以前に比べて、増えた
1	外出	724	140	105	127	111	82	57	86	16
		100.0	19.3	14.5	17.5	15.3	11.3	7.9	11.9	2.2
2	人との接触	724	151	94	111	110	87	79	81	11
		100.0	20.9	13.0	15.3	15.2	12.0	10.9	11.2	1.5

Q7

<p>今年4月7日から最大で5月25日まで7都府県において緊急事態が宣言され、その後、対象地域が全国に拡大され、外出自粛要請などが行われました。</p> <p>現在、あなたの外出はどのくらい元に戻りましたか。緊急事態宣言以前と比べて、通勤・通学や余暇活動などを全て含めた外出がどの程度になっているかお答えください。</p> <p>また、現在、あなたの人との接触はどのくらい元に戻りましたか。緊急事態宣言以前と比べて、人との接触がどの程度になっているかお答えください。およその感じがかまいません。</p>										
	単一回答		1	2	3	4	5	6	7	8
		全体	緊急事態宣言以前に比べて、0~1割程度になっている(ほとんど戻っていない)	緊急事態宣言以前に比べて、1~2割程度になっている	緊急事態宣言以前に比べて、2~4割程度になっている	緊急事態宣言以前に比べて、4~6割程度になっている	緊急事態宣言以前に比べて、6~8割程度になっている	緊急事態宣言以前に比べて、8~9割程度になっている	緊急事態宣言以前に比べて、9~10割程度になっている((ほとんど)戻った)	緊急事態宣言以前に比べて、増えた
1	外出	724	90	82	108	110	120	75	124	15
		100.0	12.4	11.3	14.9	15.2	16.6	10.4	17.1	2.1
2	人との接触	724	107	85	103	135	110	78	92	14
		100.0	14.8	11.7	14.2	18.6	15.2	10.8	12.7	1.9

## Q8

<p>新型コロナウイルス感染症の流行にともなう外出自粛や休業要請により疲弊した景気や経済を再興させるため、今年7月22日以降、政府は「Go To トラベル」や「Go To イート」などの「Go To キャンペーン」を実施しています。</p> <p>あなた、またはあなたのご家族は、これまでにこれらのキャンペーンを何回利用しましたか。</p> <p>※Go To トラベルについては、例えば2泊3日の旅行に行った場合、1回の旅行として数えてください。</p> <p>※Go To イートについては、オンラインでの飲食予約による1回の食事を1回として、また、プレミアム付き食事券の1回の購入を1回として、数えてください。そして、これらを合わせた回数をお答えください。</p>							
単一回答	全体	1 利用したことが ない	2 1回利用し た	3 2回利用し た	4 3～5回利用し た	5 6回以上利用し た	
1	Go To トラベル	724	523	119	44	29	9
		100.0	72.2	16.4	6.1	4.0	1.2
2	Go To イート	724	558	82	42	29	13
		100.0	77.1	11.3	5.8	4.0	1.8

新型コロナウイルス（COVID-19）の流行に関わる以下のようなことがらについて、あなたはどのようにお考えですか。								
単一回答	全体	1	2	3	4	5	6	
		とても 思う	そう 思う	ややそ う思う	あまりそ う思わな い	そう思 わない	全くそ う思わ ない	
1	新型コロナウイルスに感染することが怖い	724 100.0	326 45.0	198 27.3	130 18.0	45 6.2	14 1.9	11 1.5
2	新型コロナウイルスに感染すれば、重症化したり後遺症が残ってしまうのではないかと思う	724 100.0	256 35.4	186 25.7	171 23.6	82 11.3	23 3.2	6 0.8
3	新型コロナウイルスに自分が感染したら、他人にうつしてしまうのではないかと思う	724 100.0	349 48.2	208 28.7	122 16.9	29 4.0	11 1.5	5 0.7
4	新型コロナウイルスの拡大写真を見ると怖い	724 100.0	116 16.0	141 19.5	159 22.0	187 25.8	52 7.2	69 9.5
5	新型コロナウイルスの流行が、いつ収束するかわからないのが怖い	724 100.0	277 38.3	207 28.6	151 20.9	60 8.3	18 2.5	11 1.5
6	新型コロナウイルスの流行後の自分の将来が見通せない	724 100.0	158 21.8	181 25.0	181 25.0	154 21.3	31 4.3	19 2.6
7	新型コロナウイルスに感染しても、感染したことを友人・知人には知られたくない	724 100.0	125 17.3	154 21.3	193 26.7	177 24.4	43 5.9	32 4.4
8	新型コロナウイルスに感染しても、感染したことを他人には誰にも知られたくない	724 100.0	141 19.5	155 21.4	183 25.3	168 23.2	41 5.7	36 5.0
9	新型コロナウイルスに感染すると、友人・知人から避けられるのではないかと思う	724 100.0	155 21.4	168 23.2	200 27.6	151 20.9	32 4.4	18 2.5
10	新型コロナウイルスに感染すると、見ず知らずの人から避けられるのではないかと思う	724 100.0	169 23.3	169 23.3	202 27.9	132 18.2	28 3.9	24 3.3
11	新型コロナウイルスに感染すると、友人・知人からひどい扱いを受けるのではないかと思う	724 100.0	87 12.0	84 11.6	161 22.2	260 35.9	84 11.6	48 6.6
12	新型コロナウイルスに感染すると、見ず知らずの人からひどい扱いを受けるのではないかと思う	724 100.0	127 17.5	124 17.1	218 30.1	179 24.7	44 6.1	32 4.4
13	新型コロナウイルスは、自分や家族に一時的に大きな経済的な損失を与える	724 100.0	219 30.2	176 24.3	188 26.0	96 13.3	27 3.7	18 2.5
14	新型コロナウイルスは、自分や家族に長期的な経済的損失を与える	724 100.0	186 25.7	181 25.0	193 26.7	116 16.0	38 5.2	10 1.4
15	新型コロナウイルスは、自分の友人や知人の多くに経済的な損失を与える	724 100.0	134 18.5	146 20.2	217 30.0	142 19.6	54 7.5	31 4.3
16	新型コロナウイルスは、日本経済に大きな損失を与える	724 100.0	354 48.9	205 28.3	121 16.7	28 3.9	12 1.7	4 0.6
17	新型コロナウイルスによる経済損失が大きく、日本経済は長期的に回復しない	724 100.0	213 29.4	220 30.4	193 26.7	79 10.9	13 1.8	6 0.8
18	新型コロナウイルスは、世界経済に大きな損失を与える	724 100.0	347 47.9	202 27.9	131 18.1	30 4.1	9 1.2	5 0.7
19	新型コロナウイルスによる経済損失が大きく、日本経済は世界各国に遅れを取ってしまう	724 100.0	154 21.3	146 20.2	194 26.8	194 26.8	32 4.4	4 0.6
20	新型コロナウイルスによる経済損失から世界に先んじて回復すれば、日本経済は世界各国より優位に立てる	724 100.0	90 12.4	154 21.3	190 26.2	246 34.0	33 4.6	11 1.5
21	手洗いをこまめに行うようにしている	724 100.0	347 47.9	209 28.9	125 17.3	25 3.5	13 1.8	5 0.7

22	なるべく頻繁に除菌ジェルや除菌スプレーを使うようにしている	724	240	214	170	67	21	12
		100.0	33.1	29.6	23.5	9.3	2.9	1.7
23	外出時はなるべくマスクを付けるようにしている	724	505	136	47	23	7	6
		100.0	69.8	18.8	6.5	3.2	1.0	0.8
24	咳をするときには、マスクやハンカチ、ひじの内側などを使って、必ず口や鼻を覆う	724	397	193	90	29	12	3
		100.0	54.8	26.7	12.4	4.0	1.7	0.4
25	頻繁に換気をするようにしている	724	201	217	199	82	19	6
		100.0	27.8	30.0	27.5	11.3	2.6	0.8
26	換気の悪い場所に行かないようにしている	724	242	197	189	70	19	7
		100.0	33.4	27.2	26.1	9.7	2.6	1.0
27	人混みを避けるようにしている	724	290	209	153	53	15	4
		100.0	40.1	28.9	21.1	7.3	2.1	0.6
28	他の人との距離を取るようにしている	724	237	228	186	54	15	4
		100.0	32.7	31.5	25.7	7.5	2.1	0.6
29	体調が悪いときには、外出しないようにしている	724	328	223	127	41	3	2
		100.0	45.3	30.8	17.5	5.7	0.4	0.3

#### Q10

あなたは、新型コロナウイルスの接触確認アプリ（COCOA など）を利用していますか。			
	単一回答	N	%
1	インストール（導入）している	190	26.2
2	インストール（導入）していない	509	70.3
3	インストール（導入）したが削除した	25	3.5
	全体	724	100.0

#### Q11

新型コロナウイルスの接触確認アプリをどのくらいよく確認しますか。			
	単一回答	N	%
1	1日1回以上	30	15.8
2	2～3日に1回くらい	42	22.1
3	1週間に1回くらい	58	30.5
4	1ヶ月に1回くらいまたはそれ以下	60	31.6
	全体	190	100.0

## Q12

新型コロナウイルスの接触確認アプリに関わる以下のことがらについて、あなたはどのように思いますか。								
次に、お住まいの地域について、あなたはどのように思いますか。								
	単一回答	全体	1	2	3	4	5	6
			とても 思う	そう 思う	ややそ う思う	あまりそ う思わな い	そう思 わない	全くそ う思わ ない
1	このアプリを利用することで感染予防になる	724 100.0	25 3.5	93 12.8	185 25.6	303 41.9	55 7.6	63 8.7
2	このアプリの監視により新型コロナウイルスに感染しない	724 100.0	14 1.9	28 3.9	76 10.5	293 40.5	137 18.9	176 24.3
3	このアプリは人々の行動という個人情報を利用するものだが、このやり方は新型コロナウイルスの感染症対策として適切だ	724 100.0	31 4.3	77 10.6	246 34.0	274 37.8	46 6.4	50 6.9
4	このアプリは人々の行動という個人情報を把握されることになるので不安だ	724 100.0	84 11.6	115 15.9	209 28.9	221 30.5	58 8.0	37 5.1
5	このアプリは感染者と接触したかわかるので、安心だ	724 100.0	28 3.9	88 12.2	276 38.1	234 32.3	50 6.9	48 6.6
6	このアプリは感染者と接触したかわかるので、感染したのではないかと不安になる	724 100.0	57 7.9	123 17.0	259 35.8	215 29.7	36 5.0	34 4.7
7	このアプリは監視されているようで安心する	724 100.0	23 3.2	33 4.6	114 15.7	351 48.5	97 13.4	106 14.6
8	このアプリは監視されているようで不安になる	724 100.0	79 10.9	105 14.5	198 27.3	234 32.3	62 8.6	46 6.4
9	私の住む地域のことはだいたい知っている	724 100.0	37 5.1	127 17.5	238 32.9	237 32.7	61 8.4	24 3.3
10	近所のどこにどのような人が住んでいるかよく知っている	724 100.0	30 4.1	86 11.9	167 23.1	261 36.0	101 14.0	79 10.9
11	私のことは近所の人によく知られている	724 100.0	19 2.6	75 10.4	157 21.7	249 34.4	124 17.1	100 13.8
12	私の住む地域の人々は、たいていは知り合い同士だ	724 100.0	20 2.8	60 8.3	145 20.0	223 30.8	123 17.0	153 21.1
13	この地域で起きたことは、すぐに耳に入ってくる	724 100.0	21 2.9	66 9.1	156 21.5	241 33.3	112 15.5	128 17.7

## Q13

お住まいの地域において、次のようなことがどのくらいありますか。						
Q13	単一回答	全体	1	2	3	4
			よく ある	ときどき ある	たまに ある	全くな い
1	私の住む地域の人から、同じ地域の人が新型コロナウイルスに感染したという話を聞くこと	724 100.0	13 1.8	103 14.2	146 20.2	462 63.8
2	私の住む地域の人に、同じ地域の人が新型コロナウイルスに感染したという話を伝えること	724 100.0	20 2.8	65 9.0	98 13.5	541 74.7

## Q14

あなたは、新型コロナウイルス感染症で入院したことがありますか？			
	単一回答	N	%
1	はい	8	1.1
2	いいえ	716	98.9
	全体	724	100.0

## Q15S1

<p>あなたの友人・知人の中に新型コロナウイルス（COVID-19）の感染者はいますか？ その人数をお答えください。</p> <p>また、あなたの友人・知人の中に 2011 年 3 月の東日本大震災で亡くなった人は関連死を含めて何人いますか？ その人数をお答えください。</p> <p>いない場合や、いるかどうかわからない場合は 0（人）とお答えください。</p> <p>友人・知人の中の新型コロナウイルス（COVID-19）の感染者</p>		
数値記入	N	%
0 人	672	92.82
1 人	31	4.28
2 人	9	1.24
3 人	4	0.55
4 人	1	0.14
5 人	4	0.55
10 人	1	0.14
20 人	1	0.14
50 人	1	0.14
全体	724	100.0

## Q15S2

友人・知人の中の東日本大震災で亡くなった方		
数値記入	N	%
0 人	692	95.58
1 人	17	2.35
2 人	7	0.97
3 人	4	0.55
8 人	2	0.28
10 人	1	0.14
30 人	1	0.14
全体	724	100.0

## Q16

下にいくつかの苗字を示します。あなたの友人・知人の中で、次のような苗字の方は、何人いますか。いる場合、その人数をご記入ください。その苗字の友人・知人がいない場合には、0（ゼロ）を記入してください。 【下記の数値は 20 個の苗字について回答された人数の合計値】					
数値記入	N	%	数値記入	N	%
0 人	118	16.30	25 人	4	0.55
1 人	55	7.60	26 人	5	0.69
2 人	47	6.49	27 人	5	0.69
3 人	46	6.35	28 人	3	0.41
4 人	44	6.08	29 人	4	0.55
5 人	33	4.56	30 人	3	0.41
6 人	29	4.01	32 人	1	0.14
7 人	22	3.04	33 人	4	0.55
8 人	41	5.66	34 人	1	0.14
9 人	32	4.42	35 人	1	0.14
10 人	34	4.70	36 人	2	0.28
11 人	30	4.14	37 人	1	0.14
12 人	20	2.76	38 人	4	0.55
13 人	15	2.07	40 人	1	0.14
14 人	19	2.62	41 人	2	0.28
15 人	13	1.80	42 人	1	0.14
16 人	9	1.24	43 人	1	0.14
17 人	11	1.52	44 人	1	0.14
18 人	9	1.24	45 人	1	0.14
19 人	12	1.66	50 人	3	0.41
20 人	4	0.55	51 人	1	0.14
21 人	8	1.10	58 人	1	0.14
22 人	8	1.10	76 人	1	0.14
23 人	7	0.97	262 人	1	0.14
24 人	6	0.83	全体	724	100.00

## Q17

		あなた自身について、いくつかお尋ねします。以下の文章について、それぞれの文章があなた自身にどの程度あてはまるかを考え、あてはまる数字を選んでください。					
	単一回答	全体	1	2	3	4	5
			あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	まわりの人と協力していると心地よく感じる	724 100.0	84 11.6	312 43.1	250 34.5	53 7.3	25 3.5
2	つい人の視線が気になってしまう	724 100.0	102 14.1	289 39.9	178 24.6	123 17.0	32 4.4
3	たいていは自分だけで物事の決断をする	724 100.0	115 15.9	292 40.3	214 29.6	94 13.0	9 1.2
4	つねに自分自身の意見を持つようにしている	724 100.0	112 15.5	306 42.3	249 34.4	50 6.9	7 1.0
5	自分の意見をいつもはっきり言う	724 100.0	67 9.3	234 32.3	265 36.6	119 16.4	39 5.4
6	まわりの人が自分をどう思っているかが、つい気になる	724 100.0	110 15.2	252 34.8	197 27.2	124 17.1	41 5.7
7	まわりの人との間で和をたもつことを大切にしている	724 100.0	113 15.6	350 48.3	205 28.3	45 6.2	11 1.5
8	まわりの人の気持ちを尊重するようにしている	724 100.0	103 14.2	367 50.7	219 30.2	30 4.1	5 0.7
9	ほかの人とはちがった生き方をしたい	724 100.0	53 7.3	141 19.5	339 46.8	141 19.5	50 6.9
10	人と話をするときには、直接的にずばりと言う方が好きだ	724 100.0	52 7.2	163 22.5	289 39.9	169 23.3	51 7.0
11	まわりの人との関係や、地位のちがいがつい気になってしまう	724 100.0	36 5.0	203 28.0	273 37.7	162 22.4	50 6.9
12	相手を傷つけないようにあいまいな表現をするより、はっきりと自分の考えを伝えるようにしている	724 100.0	39 5.4	187 25.8	305 42.1	150 20.7	43 5.9
13	ほかの人とはちがう自分が好きだ	724 100.0	40 5.5	177 24.4	333 46.0	140 19.3	34 4.7
14	いつも自分の立場をちゃんと主張するようにしている	724 100.0	43 5.9	193 26.7	304 42.0	151 20.9	33 4.6
15	自分の利益にならなくても、まわりの人の役に立つことができたらうれしい	724 100.0	69 9.5	284 39.2	274 37.8	75 10.4	22 3.0
16	自分の好きなようにできなくなるくらいなら、人の助けを求めたいとは思わない	724 100.0	47 6.5	185 25.6	331 45.7	130 18.0	31 4.3
17	まわりの人がどう思うかが気になって、自分のしたいことをそのままできないことがある	724 100.0	66 9.1	193 26.7	265 36.6	148 20.4	52 7.2
18	いつもまわりの人の立場にたって物事を考えるようにしている	724 100.0	42 5.8	273 37.7	317 43.8	74 10.2	18 2.5
19	まわりの人に左右されない生き方をしたい	724 100.0	148 20.4	327 45.2	194 26.8	40 5.5	15 2.1
20	まわりの人からきられないようにふるまうことがよくある	724 100.0	76 10.5	255 35.2	278 38.4	83 11.5	32 4.4



## Q18

あなたの考えに最も近い数字を選んでください。					
単一回答		1	2	3	4
	全体	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1 私は人を信頼するほうである	724	97	359	213	55
	100.0	13.4	49.6	29.4	7.6
2 ほとんどの人は信頼できる	724	43	278	309	94
	100.0	5.9	38.4	42.7	13.0
3 ほとんどの人は基本的に善良で親切である	724	50	360	236	78
	100.0	6.9	49.7	32.6	10.8
4 私は自分自身のことを、活発で、外交的だと思う	724	40	180	320	184
	100.0	5.5	24.9	44.2	25.4
5 私は自分自身のことを、ひかえめで、おとなしいと思う	724	79	312	266	67
	100.0	10.9	43.1	36.7	9.3

## Q19

世の中のありかたについて次のような意見があります。あなたはどのように思いますか。あなたの考えにいちばん近い番号をひとつを選んでください。						
単一回答		1	2	3	4	5
	全体	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえません	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1 権威ある人々にはつねに敬意を払わなければならない	724	33	207	293	128	63
	100.0	4.6	28.6	40.5	17.7	8.7
2 以前からなされてきたやり方を守ることが、最上の結果を生む	724	22	117	376	159	50
	100.0	3.0	16.2	51.9	22.0	6.9
3 伝統や習慣にしたがったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題を引き起こすことになる	724	32	107	352	176	57
	100.0	4.4	14.8	48.6	24.3	7.9
4 この複雑な世の中で何をすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである	724	43	183	332	116	50
	100.0	5.9	25.3	45.9	16.0	6.9

## Q20

あなたが通ったことのある学校を、すべてお聞かせください。中退・通学中の学校も選んでください。		
複数回答	N	%
1 中学校・旧制小学校	513	70.9
2 高校・旧制中学校	562	77.6
3 専門学校	130	18.0
4 短大・高専	76	10.5
5 大学・旧制高校	339	46.8
6 大学院・旧制大学	33	4.6
7 その他（具体的に【 】）	2	0.3
全体	724	100.0

## Q21

あなたの現在のお仕事についてうかがいます。複数の仕事をお持ちの場合は、主な仕事についてうかがいます。			
あなたはどのような形で働いていますか。			
	単一回答	N	%
1	従業員 30 人以上の経営者・役員	16	2.2
2	正規雇用（公務員を含む）・常時雇用の一般従業員	248	34.3
3	臨時雇用・パート・アルバイト	84	11.6
4	派遣社員・契約社員・嘱託社員	58	8.0
5	従業員 30 人未満の経営者・自営業主（農業を含む）・家族従業者・自由業者・内職	45	6.2
6	無職・家事	221	30.5
7	学生・生徒	52	7.2
	全体	724	100.0

## Q22

あなたはどのような仕事をしていますか。			
	単一回答	N	%
1	農林漁業職（植木職、造園業を含む）	6	1.3
2	技能・労務・作業系の職業（工場労働者、自衛官、警察官、職人、建設作業員、運転手など）	90	20.0
3	販売・サービス系の職業（店主、店員、営業社員、美容師、クリーニング、給仕、接客、清掃、ヘルパーなど）	94	20.8
4	事務的職業（事務員、銀行員など）	119	26.4
5	管理的職業（課長相当以上の管理職、議員など）	30	6.7
6	専門的職業（医師、弁護士、教員、エンジニア、プログラマー、看護師、介護士、作家、デザイナー、編集者など）	112	24.8
	全体	451	100.0

## Q23

あなたの仕事は、次のようなものに当てはまりますか。当てはまる場合にはチェックを入れてください。当てはまるものがない場合には、最後の「当てはまるものはない」にチェックを入れてください。			
	単一回答	N	%
1	医療・看護従事者	40	8.9
2	福祉・介護従事者	20	4.4
3	接待を伴う飲食店	11	2.4
4	接待を伴わない飲食店	7	1.6
5	対面的接触が多い店員や販売員	22	4.9
6	理容・美容・エステなど身体接触のある職業の従事者	4	0.9
7	公共交通機関（タクシーを含む）や宅配業務の従業者	7	1.6
8	外回りの営業員	28	6.2
9	流れ作業を伴う工場での従業員	23	5.1
10	当てはまるものはない	289	64.1
	全体	451	100.0

Q24

現在、通勤・通学時間は片道どのくらいですか。なお、自宅でお仕事をされている方は「0」分とお答えください。テレワークと職場での仕事が両方ある場合は、職場までの時間をお答えください。【120分を超える場合は、回答をチェックして、適切と思われる値に変更した。判断不能の場合には欠損値とした。】

分	N	%	分	N	%
0	47	9.44	30	73	14.66
1	1	0.20	35	7	1.41
2	1	0.20	40	33	6.63
3	6	1.20	45	14	2.81
4	1	0.20	50	16	3.21
5	28	5.62	55	2	0.40
6	2	0.40	60	45	9.04
7	2	0.40	65	2	0.40
8	1	0.20	70	12	2.41
9	2	0.40	75	6	1.20
10	45	9.04	80	9	1.81
12	3	0.60	90	26	5.22
13	1	0.20	98	1	0.20
15	40	8.03	100	4	0.80
20	50	10.04	105	1	0.20
22	1	0.20	120	9	1.81
25	7	1.41	Total	498	100.00

Q25

あなたのふだんの通勤・通学のための交通手段について教えてください。次のうち当てはまるもの全てを選んでください。なお、自宅でお仕事をされている方は「自宅勤務（通勤なし）」とお答えください。テレワークと職場での仕事が両方ある場合は、職場に行くまでの交通手段をお答えください。

複数回答	N	%
1 公共交通機関（電車・バス）	178	35.4
2 タクシー	7	1.4
3 自家用車・社用車	198	39.4
4 その他の乗り物（具体的に：【 】）	56	11.1
5 自宅から駅・停留所・駐車場までの10分以上の徒歩	43	8.5
6 駅・停留所・駐車場から職場までの10分以上の徒歩	31	6.2
7 徒歩のみ	49	9.7
8 自宅勤務（通勤なし）	41	8.2
全体	503	100.0

Q26

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言（4月7日）以前、以降、現在それぞれについて、1週間あたり何日の自宅勤務（テレワーク）、またはオンライン授業の受講を行いましたか。

単一回答	全体	1	2	3	4	5	6
		0日	1日	2日	3日	4日	5日以上
1 新型コロナウイルスによる緊急事態宣言以前	503	403	11	14	10	13	52
	100.0	80.1	2.2	2.8	2.0	2.6	10.3
2 新型コロナウイルスによる緊急事態宣言以降	503	292	31	44	31	30	75
	100.0	58.1	6.2	8.7	6.2	6.0	14.9
3 現在	503	339	27	34	26	28	49
	100.0	67.4	5.4	6.8	5.2	5.6	9.7

Q27

<p>令和元年（2019年）1～12月のあなたの収入は、税込みでいくらぐらいでしたか。年金、株式配当などすべての収入について、臨時収入、副収入も含めてお答えください。</p> <p>また、令和元年（2019年）1～12月のあなたの世帯全体の収入（あなたと配偶者とその他の方の合計）は、税込みでいくらぐらいでしたか。年金、株式配当などすべての収入について、臨時収入、副収入も含めてお答えください。</p>																
	単一回答		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
		全体	25万円未満	25～50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1,000万円未満	1,000～1,500万円未満	1,500～2,000万円未満	2,000～2,500万円未満	2,500～3,000万円未満	3,000万円以上
1	あなたの収入	724	204	39	67	79	95	71	94	48	15	4	4	2	2	0
		100.0	28.2	5.4	9.3	10.9	13.1	9.8	13.0	6.6	2.1	0.6	0.6	0.3	0.3	0.0
2	あなたの世帯収入	724	71	26	27	40	83	96	143	117	51	45	13	9	2	1
		100.0	9.8	3.6	3.7	5.5	11.5	13.3	19.8	16.2	7.0	6.2	1.8	1.2	0.3	0.1

Q28

<p>令和2年（2020年）のあなたの収入は、前年と比べてどのようになると見込まれますか。</p> <p>また、令和2年（2020年）のあなたの世帯全体の収入は、前年と比べてどのようになると見込まれますか。</p> <p>答えは、だいたいでかまいません。</p>								
	単一回答		1	2	3	4	5	6
		全体	前年の0～2割程度	前年の2～5割程度	前年の5～8割程度	前年の8～9割5分程度	前年の9割5分～11割程度（ほぼ同じ程度）	前年の11割以上
1	あなたの収入	724	123	29	84	89	377	22
		100.0	17.0	4.0	11.6	12.3	52.1	3.0
2	あなたの世帯収入	724	71	30	91	124	389	19
		100.0	9.8	4.1	12.6	17.1	53.7	2.6

Q29

あなたは現在結婚されていますか。結婚には、結婚届を出していない内縁の関係も含みます。			
	単一回答		
1	結婚したことはない（未婚）	255	35.2
2	結婚している（現在配偶者がいる）	402	55.5
3	離別した	51	7.0
4	死別した	16	2.2
	全体	724	100.0

## Q30S1

あなたには、高校生以下（高校生を含む）のお子さんが何人いますか。いない場合は、0人と記入して下さい。また、現在、あなたといっしょに住んでいる方は、あなたを含めて全部で何人ですか。一時的に別居している方は除いてご記入ください。（数字を記入してください）		
高校生以下のお子さん		
数値記入	N	%
0人	552	76.24
1人	82	11.33
2人	72	9.94
3人	14	1.93
4人	2	0.28
8人	1	0.14
30人	1	0.14
全体	724	100

## Q30S2

あなたといっしょに住んでいる方（あなたを含めて）		
数値記入	N	%
1人	160	22.1
2人	197	27.21
3人	177	24.45
4人	136	18.78
5人	36	4.97
6人	11	1.52
7人	2	0.28
8人	1	0.14
10人	1	0.14
23人	1	0.14
33人	1	0.14
45人	1	0.14
全体	724	100

## Q31

あなたが住んでいるところは、どのようなところですか。最も当てはまると思うところを選んでください。			
	単一回答	N	%
1	大都市の中心部	101	14.0
2	大都市の郊外	161	22.2
3	中小都市の中心部	148	20.4
4	中小都市の郊外	237	32.7
5	農村・漁村、田舎	77	10.6
	全体	724	100.0

新型コロナウイルスの社会的影響にかかわる調査  
2020年度 「社会調査実習 B」報告書

近畿大学 総合社会学部 社会・マスメディア系専攻

---

2021年3月31日 印刷・発行

編集・発行，科目担当教員：教授 辻 竜平  
近畿大学 総合社会学部 社会・マスメディア系専攻  
〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1  
Phone: (06) 4307-4793 (直通)  
E-mail: [rtsuji@socio.kindai.ac.jp](mailto:rtsuji@socio.kindai.ac.jp)

印刷：近畿大学管理部用度課（出版印刷）